

「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究（小・中学校）」
平成27年度委託事業完了報告書【総括】

都道府県名 (推進地域)	三重県	番号	24
-----------------	-----	----	----

市町村名 (推進地区名)	協力校名	児童生徒数
桑名市	多度北小学校	76人
名張市	錦生赤目小学校	215人
	すずらん台小学校	205人
	梅が丘小学校	348人
	名張中学校	464人

○ 実践研究の内容

1. 推進地域における取組

◆「各学校における知識・技能の活用を目指した授業改善サイクルの確立」に向けて

(1) 全国学力・学習状況調査（以下、「全国学調」という。）の結果を活用した推進地区の学力向上施策や協力校の授業改善の取組への支援

①授業や家庭学習で使用できるよう、学習指導要領の内容に基づく教科別・学年別のワークシートを作成し、県教育委員会小中学校教育課・学力向上推進プロジェクトチームのホームページに掲載し、活用の働きかけを実施した。（平成27年度末までに計1222本配信）

②全国学調の結果から明らかになった課題に対応したワークシート等をまとめた「三重の学-Viva!!セット」（小学校版、中学校版）を小中学校長会と連携して配付し、活用の促進を図った。（第3弾、4弾配付）

③早期からの授業改善を促進するために、全国学調自校採点研修会（4/27）、三重県独自の学力調査の第1回みえスタディ・チェック自校採点研修会（10/26）を開催した。

④民間機関の協力による全国学調の「分析報告書」及び「ガイドブック版」を各市町及び全小中校へ配送（11月）した。

(2) 学力向上アドバイザーの派遣

学力向上アドバイザー（教科等の指導や学校マネジメントについて、専門的な知識と豊富な経験を有する退職校長）を学校に派遣し、授業において、効果的な少人数指導の他、めあての提示、振り返り活動の充実など、授業改善のための視点を指導・助言を行った。

(3) みえスタディ・チェックの実施

児童生徒の学習内容の定着状況を把握し、早期の授業改善及び個に応じた指導の充実等、各学校が組織的かつ継続的なPDCAサイクルを確立するために、学習指導要領に基づき、各教科の目標及び内容に即した、みえスタディ・チェックを実施した。

(4) 国の調査官を招聘した授業改善（小学校国語及び小学校算数）の充実を図る研修会の開催

①地域別4ブロックで講演会（7月実施。小学校国語2回、小学校算数2回）を開催した。

②県北部・南部の2地域で、公開授業を中心とした実践的な研修会（12、2月実施。各月に小学校国語、小学校算数を1回ずつ実施）を開催した。

(5) 地域別学力向上推進会議、学力向上推進会議、三重県研究指定校合同発表会の開催

①みえの学力向上県民運動の趣旨に基づき、全国学調の結果からみた本県の現状や学力向上に関する県の方針の周知・徹底、効果的な少人数指導のあり方に係る協議等をするために、学力向上推進会議（9/17、3/11

開催。市町等教育委員会指導主事対象) や地域別学力向上推進会議 (6, 2 月開催。県が指定する実践推進校対象) を開催した。

②「三重県研究指定校等合同発表会」 (2/25 開催) にて、当事業の推進地区 2 市の取組を発表した。

◆「学校・家庭・地域が連携した学力向上の取組の推進」に向けて

(1) 学校・家庭・地域が一体となった学力の定着・向上のため、課題解決に向けた取組の実施

①生活習慣・読書習慣の確立に向けて、県 PTA 連合会と連携したチェックシートの集中取組期間を設定し、調査結果のフィードバックを促進した。

②平成 24 年度から展開している「みえの学力向上県民運動」の成果発表会 (1/7) や、学力向上通信「三重の学-Viva (まなびま)」 (月 1 回発行) を通して優良事例を紹介するなどして、学校・家庭・地域の連携を強化した。

③全国学調の結果分析を行い、家庭・地域へ情報共有を行うための公表モデル様式を各市町教育委員会及び各小中学校へ提供した。

2. 推進地区における取組

(1) 桑名市教育委員会における取組

①全体提案授業事後検討会 (5 年算数「小数のわり算」) における指導・助言

②講演会の実施 (就実大学楠博文准教授)

・授業参観に基づく指導助言と講演会を実施した。

(2) 名張市教育委員会における取組

①学校訪問を行い、授業参観及び学校の取組方針に関する聴取・指導の実施

・「平成 27 年度 名張市における学力向上への取組」の中で、「学力向上 3 本の矢」を示し、「めあての提示と振り返りのある授業」、「日常的な言語活動の充実」、「充実した家庭学習」の徹底を図った。

②「名張市学校・園教育研究推進委員会」による会議の開催

・「平成 27 年度学校・園教育研究集会」を開催 (年 5 回) し、各学校の実践について交流した。さらに、本市の教育における喫緊の課題を解決するとともに現場の実践研究を行う、「グループ研究」を開催 (年 8 回) した。

③「名張市学力向上実践交流会」を開催し、「平成 27 年度 名張市における学力向上への取組」に関する取組状況等を交流し、講演会を行った。

3. 協力校における取組

(1) 多度北小学校

①全国学調、みえスタディ・チェック、ワークシートの 3 点セットの活用

・全国学力・学習状況調査の自校採点やみえスタディ・チェックの実施、ワークシートの活用により、児童の学力の現状を把握した。

・反復 (スパイラル) により、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させた。

②子どもの意欲を高める授業改善

・平成 26 年度より算数を窓口として、「自ら思考し学び合う子の育成～みんなで課題を追求する授業を通して～」を研究テーマに研修を進めた。

・7 月と 12 月には、岡山より大学准教授を招聘し、授業観察と講演会を開いた。

③家庭・地域との連携 (家庭での学習習慣の充実)

家庭学習振り返り週間 (毎月 1 週間)、ノーゲーム (年間 2 回)、読書週間 (年間 1 回) を設定し実施した。

④学習支援サポーター (退職校長) の活用

月 1 回ずつ各学級の算数の授業に T T 体制で入り、児童の学習支援にあたった。また、長年の教育経験を活かし、授業や学級経営について教員への助言を行った。

⑤その他（学校での学力向上の基礎づくり）

- ・学級づくり・仲間づくりの取組を進めた。
- ・日常的に読書や詩の暗唱などを行い、読む・聞く・話すことで語彙力や表現力を高めた。

(2) 錦生赤目小学校

①全国学調、みえスタディ・チェック、ワークシートの3点セットの活用

校内研修会で強み・弱みについて共通理解し、ペア学習やグループ学習を取り入れ、自分の考えを伝え合う力を高めることができるよう、各学年で具体的な方策について検討し、児童の指導を行った。

午後の帯時間の「かがやきタイム」において、三重の学-Viva セットの当該学年のワークシート等も活用して、個に応じた反復練習ができるよう取り組んだ。

②効果的な少人数指導の取組

算数については、全学級毎時間2人以上で指導した。学級の実態に応じて、TT授業を行ったり、クラスを半分に分けて少人数授業を行ったりした。

③家庭・地域との連携

全国学調の結果について学校通信で全保護者に知らせるとともに、当該学年では説明会を開き、結果についての説明をして家庭学習の協力を呼びかけた。また、全児童に家庭学習の手引きを配付し、家庭学習強化週間をつくり、家庭学習の意識を高めることができるようにした。

また、全国学調の児童質問紙結果や生活習慣・読書習慣チェックシートの結果をもとに、懇談会等で実態を保護者に話し、家庭での協力を呼びかけた。

④学力向上アドバイザーの活用

すべての学級でめあてと振り返りを意識した授業を行い、アドバイザーが全学級の授業参観を行った。そして、授業後や校内研修会でアドバイスを受け、授業改善に生かした。

(3) すずらん台小学校

①全国学調、みえスタディ・チェック、ワークシートの3点セットの活用

「授業のめあて」や「学習の流れ」の提示、「振り返りの活動」を行うことを学校統一のスタイルとして、授業の構造化に取り組んだ。

読書内容の充実と感想文等書く力の育成をめざし、各学年、課題図書を選定し、集団読書に取り組んだ。

10月に4・5年生がみえスタディ・チェックを実施すると共に、2・3年生もテストを実施した。また、みえスタディ・チェック等の実施前にはワークシートを利用し、学習を行った。

②効果的な少人数指導の取組

5年生は少人数学級編制を、3・4・6年生は、算数科で学級を分割した少人数授業を実施した。

③家庭・地域との連携

「家庭学習の手引き」を配付し啓発を行った。チェックシートや学校独自の生活点検を実施し、結果を保護者に伝えることにより、家庭での生活習慣を今まで以上に身に付けるよう啓発した。

④学力向上アドバイザーの活用

校内研修会に参加して、アドバイスを受けた。さらに、教員は学期に1回は授業公開し、個人的に授業改善に向けてアドバイスを受けた。

(4) 梅が丘小学校

学力向上に向けての取組を全校体制のものとなるよう「学力・体力向上検討部会」を設置し、日々の授業改善、学習規律の徹底、学習習慣の確立等を中心に取組を検討し、改善してきた。

①全国学調、みえスタディ・チェック、ワークシートの3点セットの活用

学力向上に向けた「学力・体力向上検討部会」では、「授業の改善」「学習規律の改善」「学習習慣の改善」について全校での取組を決定し、実践した。

②効果的な少人数指導の取組

基礎的・基本的な事項の定着を図るため、また、一人ひとりによりきめ細かな指導を行うためにTT形式の指導を取り入れた。

③家庭・地域との連携

家庭での自主的な学習の手引き「学習のすすめ」を作成し、保護者・家庭の協力を得て、家庭学習の習慣化を図ることとした。また、全国学調の結果と分析結果を公表した。

④学力向上アドバイザーの活用

学力向上アドバイザーがすべてのクラスの授業を参観するとともに、授業者へのアドバイスの時間を確保し、授業改善に生かした。

(5) 名張中学校

①学力向上の取組

体育祭や文化祭等の行事を通して、自己有用感や自己肯定感を高め、互いに認め合う取組を進めた。

日常の授業で少数数での話し合い活動を取り入れ、自分の考えを表現する取組を進めた。

人権学習を通して「なかま集会」を行い、仲間の中で自分の考えを表現できる力の育成に取り組んだ。

学級満足度調査による学級の状況の把握とグループエンカウターの取組、満足を感じる規律ある集団作りを進めた。

学び合う場を充実する取組、「めあて」、「振り返り」を工夫し、ねらいを明確にした授業を行った。

研究授業を通して、教員の力量を高めてきた。

全学年で数学の少数数授業を実施した。2・3年ではSUT(スキルアップタイム)を設定し、生徒の状況に合わせた授業を行うとともに、「学びのすすめ」を配付し、家庭学習の意義や進め方について知らせ、自分の弱みを克服するための「自主的に学習」を進める力を育成してきた。

②集団の質を向上する取組

「『合唱・あいさつ・清掃』を通してのより良い伝統づくり」に取り組んだ。体育祭等の行事や、地域とのつながりの推進等もあわせて、生徒会を中心に、主体的な実践力とリーダーの育成を図ってきた。

③全国学調、みえスタディ・チェック、ワークシートの3点セットの活用

全国学調の結果から、正答率の低かった問題に対応できる力を付けるために、授業や家庭学習での課題の内容を工夫した。また、全国学調の過去問題を行った。

「読む力」「書く力」を伸ばすために、みえスタディ・チェックを行い、教員で採点することで課題を見つけ、今後の学習内容に生かしてきた。

「読むこと」、「書くこと」の領域で、生徒の実態やそのときの学習内容に合ったワークシートを、授業や家庭学習で活用してきた。

④効果的な少数数指導の取組

全学年の数学を2分割して授業を実施した。また、数学の学習において一部習熟度別に、「応用」、「標準」、「基礎」の3講座に分け、少数数指導を実施した。通常の授業でも、生徒どうしの教え合いや、つまづいている生徒に対しての理解できている生徒による支援など共働的な学習を取り入れた。

⑤家庭・地域との連携(全国学調結果の公表やチェックシートの取組を含む)

全国学調の結果については、個人の結果を生徒に配付し、個々の強み弱みを説明して今後の学習に生かすようアドバイスした。また、本校全体の状況を保護者説明会や文書の配付で、保護者に知らせた。

⑥学力向上アドバイザーの活用

授業を参観後、授業への指導や助言を受けた。また、アドバイザーによる指導・助言等を研修会などで教員全員に還流し、それぞれの教員が授業改善に役立てた。

○ 実践研究の成果

1. 協力校における取組の成果

(1) 桑名市立多度北小学校

①全国学調、みえスタディ・チェック、ワークシートの3点セットの活用

平成27年度全国学調の結果では、全国平均と比べ算数A問題は高く、算数B問題は同等程度となった。

校内で行っている児童アンケート(12月)の項目の中から結果をみると、「授業がわかりやすい」、「ペ

アやグループをふくめた話し合い活動で、自分の意見や考えを発表している」が改善した。

②子どもの意欲を高める授業改善

授業スタイルの統一だけでなく、子どもが主体となる授業の共通イメージを持つことができた。

③家庭での学習習慣の充実

学習習慣や生活習慣の育成に関わっては、「ふり返りカードを使って、学年×10分の勉強（読書を含む）を行っている」の回答がH26：82%→H27：91%に改善された。

④学習支援サポーター（退職校長）の活用

学習支援サポーターの活用により、一人ひとりの児童にきめ細かく支援を行うことができた。結果として、わかる喜びを味わい、学習意欲を高める児童の姿を確認することができた。

(2) 名張市立錦生赤目小学校

①全国学調、みえスタディ・チェック、ワークシートの3点セットの活用

全国学調、みえスタディ・チェックの採点を全教員で実施することで、児童の様子を学校全体で把握できた。また、強み、弱みについて校内研修会で交流することで、課題を明確にできた。

三重の学-Vivaセットのワークシート等を活用し、学習することで、問題のねらいを理解し、解き方の見通しをもって取り組むことができるようになってきた。

研修の学力保障部会を中心に、学力向上に向けて全校体制で取り組んだことにより、学習規律や授業形態等が整ってきた。

②効果的な少人数指導の取組

算数の授業では、どの学級でも複数の教員で授業を実施したことにより、子どものつまずきに対応することや、落ち着いて学習に取り組むことができた。児童一人ひとりの発言回数も増え、集中して学習に取り組むことができた。

③家庭・地域との連携（全国学調結果の公表やチェックシートの取組を含む）

全国学調の結果を学校通信、学級懇談会で知らせることにより、保護者に実態を知ってもらうことができた。また、家庭学習週間の取組をしたことで、保護者への啓発をすることができた。

④学力向上アドバイザーの活用

全クラスの授業を参観し、具体的に授業改善ができるようアドバイスをしてもらった。全教員がめあてと振り返りのある授業を意識して行うことで、子どもの意欲を高め、見通しをもった学習をすることができた。振り返りからは、個々のつまずきを把握することができた。

(3) すずらん台小学校

①全国学調、みえスタディ・チェック、ワークシートの3点セットの活用

- ・国語・算数共に正答率が上がり、無解答率が下がった。
- ・学校行事や学級活動、家庭や地域の行事等に意欲的に取り組むことで、自己有用感が高まった。
- ・授業の振り返りを児童に記述させるように取り組んできたことで、授業のねらいを明確にして取り組めるようになった。
- ・算数のテストを2・3年生も実施することにより、子ども一人ひとりの課題をとらえることができた。

②効果的な少人数指導の取組

少人数クラスを実施し、担当者2人で教材研究を行ったり、同じプリントを利用したりして連携を図った。単元毎にグループを変えることでより多くの児童と関わるようにし、丁寧な声掛けをする中で、特別に支援を必要とする児童も落ち着いて学習できるようになった。授業中のトラブルが減った。

③家庭・地域との連携

「家庭学習の手引き」を配付し、家庭学習の充実に関して啓発を行ってきた。さらに、全国学調の結果の公表と共に、チェックシートや学校独自の生活点検表を実施した結果を保護者に伝えることにより、家庭での生活習慣を今まで以上に身に付けるよう啓発した。

④学力向上アドバイザーの活用

校内研修会では、アドバイスをもとに、各学級での読書指導の取組をより充実させること、授業の最後の振り返りを文字化することについて、具体的に取組を進めていこうと全教員で確認することができた。これらの学力向上アドバイザーの活用により、教員の授業力は、徐々に向上している。

(4) 梅が丘小学校

①全国学調、みえスタディ・チェック、ワークシートの3点セットの活用

本年度の全国学調では、国語、算数のA問題、B問題とも、平均正答率は全国を下回っていた。国語科においては、基本的な漢字の読み書きはできるものの、文の内容を読み取ったり、大事な箇所を書き抜いたりするところに課題が見られた。算数科においては、基礎となる計算は力を付けてきているものの、単位量当たりの大きさ、分度器の使い方や円の描き方、小数のわり算など「量と測定」、「図形」、「数量関係」の領域での課題が見られた。さらに、国語、算数いずれの教科においても、記述式の問題を依然として苦手としていることがわかった。これらの課題となる力の育成をめざして、本年度は、次のような取組を行った。

・授業改善

「聴く」姿勢を大事にした授業、「めあて」の提示と「振り返り」の活動、ノート指導（マイノートの活用）、音読の徹底。

・学習規律の徹底

すべての学年で取り組むことによって、チャイムによる学びのスイッチの切り替え、学びのルールの提示、教室前にルールの掲示に進級しても一からの指導をする必要がなくなった。

・学びの環境づくり

ア 校内放送の見直し

昼休みの校内放送では、全校に流れる物語や曲を落ち着いて聴けるようになった。

イ 校内掲示の工夫

子どもたちの学びの環境が整うよう校内掲示に工夫を凝らす努力ができた。

②効果的な少人数指導の取組

TT形式の指導を取り入れることにより、タイミングよく個別指導に入ることができ、一人ひとりによりきめ細かな指導を行うことができた。基礎的・基本的な事項の定着に効果的であった。

また、5・6年生において理科を教科担当別とし、全学級を担当したことで、実験等の教具準備や教材研究も効果的に行え、より分かりやすい体験的な授業を実施することができ、児童のアンケート結果からも良い結果が得られている。

③家庭・地域との連携

家庭学習の手引き「学習のすすめ」を作成したり、学年の発達段階に合わせた内容、課題を例示してきたことで、徐々に意欲的に取り組める児童が増えてきた。

④学力向上アドバイザーの活用

学力向上アドバイザーがすべてのクラスの授業を参観し、各担任にアドバイスをする時間を確保し、アドバイザーと担任が効果的な指導方法や改善点について協議することで、授業改善につながった。

(5) 名張中学校

①学力向上の取組

体育祭や文化祭等の行事や、学級満足度調査等により、落ち着いて学習できるようになってきた。

少人数での話し合い活動や、「なかま集会」等により、授業中の発言も増えてきた。

授業においては、学び合う場を充実する取組、「めあて」、「振り返り」を工夫し、ねらいを明確にした授業を行った。数学の少人数授業やSUT(スキルアップタイム)の取組により、特に2年生数学では、みえスタディ・チェックの結果では、県平均、名張市平均も上回る好結果につながった。

②集団の質を向上する取組

「『合唱・あいさつ・清掃』を通してのより良い伝統づくり」に取り組んだり、生徒会中心に、主体的な実践力とリーダーの育成を図ったりしてきた結果、全体的に主体性が徐々に育ってきている。「無言清掃」

も定着し、学校生活の様々な面に好影響を及ぼしている。

③全国学調、みえスタディ・チェック、ワークシート3点セットの活用

全国学調やみえスタディ・チェックの自校採点を行い、弱み・強みを分析し、学力向上プロジェクト担当を中心に研修を行い、授業研究や授業改善に生かしてきた。振り返る活動、ワークシートの活用等により、「書く活動」に関しては、難しいと感じる生徒の割合が減ってきた。

④効果的な少人数指導の取組

今回の全国学調で明らかになった課題に力を入れて取り組んだ。数学の学習で一部習熟度別に3つの講座に分け少人数指導を行い、基礎基本の定着と活用への対応する力を育成するために取組を進めた。また、授業で、生徒同士での教え合いや、つまづいている生徒に対して理解できている生徒が助けるなどの共働的な学習を行った。その結果、みえスタディ・チェック2年数学において県平均を上回った。

⑤家庭・地域との連携（全国学調結果の公表やチェックシートの取組を含む）

家庭学習の定着に向け、宿題チェックシートを活用して毎月の家庭学習の状況を家庭に情報共有し、家庭と連携して取組を進めた。こうした結果、名張市のアンケートで、家で学校の宿題以外に自主的な学習をしている生徒の割合は、市を上回った。

読書習慣の定着に向けては、朝の読書の充実やチェックシートをPTAと連携し取組を進めた。その結果、名張市のアンケートで、普段家で全く読書をしないう生徒の割合は、名張市を下回った。

⑥学力向上アドバイザーの活用

学力向上アドバイザーの来校時に授業を参観して頂き、その授業について授業者への助言や指導を頂くと共に、その内容を校内研修会で環流し、授業改善に活かす取組を進めた。特に「振り返り」については、学校全体で共通理解し改善につなげることができた。

2. 実践研究全体の成果

(1) 推進地域における成果

①全国学調の結果を活用した早期からの授業改善の実施

「地域別学力向上推進会議」、「学力向上推進会議」や「自校採点研修会」の開催を通して、全国学調の活用が昨年度からさらに進んだ。

②「目標（めあて・ねらい）の提示」と「振り返る活動」の周知・徹底

学力向上アドバイザーによる学校訪問や、国の調査官を招聘した「授業改善の充実を図る研修会」や「地域別学力向上推進会議」等の開催により、「目標（めあて・ねらい）の提示」と「振り返る活動」を位置付けた授業が広く実施されるようになった。全国学調の質問紙調査結果からも、「目標（めあて・ねらい）」と「振り返る活動」が授業に位置付けられているかどうかについて、児童生徒の意識が高まっていることがわかった。

③みえスタディ・チェックの実施・活用

みえスタディ・チェックを実施し、自校採点を実施することで、課題を把握し、授業改善につなげる取組が進んだ。

④学校・家庭・地域が一体となって学力の定着・向上を図り、課題解決に向けた取組の強化

チェックシートの集中取組期間を設定し、調査結果のフィードバックを実施した。さらにフィードバック調査を実施し、先進事例を学力向上通信「三重の学-VivA（まなびば）」に掲載する等により、各校において、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしながら児童生徒の情報共有が図られるとともに、生活習慣・読書習慣の確立に向けた取組が広く行われるようになった。

(2) 推進地区における成果（桑名市）

①全国学調における標準化得点での経年変化

過去の調査において、調査が開始された平成19年度より課題が見られた多度北小学校であるが、平成26年度調査では飛躍的に数値が向上した。平成27年度については、算数Aで2ポイント、算数Bで3ポイント

ト下がったが、昨年度に引き続き全国の平均正答率を超えることができた。

②三重県の独自調査（みえスタディ・チェック）の算数の結果

昨年度の10月と2月の実施問題について、県の平均正答率との比較を行ったところ、2・3・4年生でその差が縮まった。

③児童アンケート「授業が分かりやすいですか」の結果

質問に対して、肯定的な回答をする児童が年々増えつつある。教員による授業改善や学習支援サポーターによる支援の成果も大きいと考えられる。1・2年生の算数アンケートでは、「算数の授業は分かる」の質問に対して、100%の児童が肯定的な回答をしている。

(3) 推進地区における成果（名張市）

本年度の全国学調の結果で、昨年度と比較した全国平均とのポイント差は、小学校では国語・算数ともに縮まり、中学校では国語・数学ともに全国平均を上回るという、全体的な改善が見られた。

「平成27年度 名張市における学力向上への取組」に基づき取組を進めた結果、以下のような成果が現れている。

- ・どの教科の授業でも最初にめあての提示と振り返りの活動を位置付けることで、生徒がその一時間の内容を認識して授業に臨めるようになってきた。
- ・少ない字数の作文を繰り返し書かせることで、字数制限のある文章が書けるようになってきた。
- ・単元の終わりに書く活動を行うことで、書く工夫ができるようになってきた。
- ・過去の全国学調の問題やワークシートに取り組むことによって、「書く力」が向上した。
- ・書くことの苦手意識が少なくなり、書く力が向上するとともに、自分の意見や考えを言おうとする姿が増えた。
- ・無言清掃に取り組んでいることもあり、生活面で集中力と落ち着きが出てきている。
- ・高学年で「自学のすすめ」を配付し、指導したため、予習・復習を行う児童が増えてきた。

3. 取組の成果の普及

- (1) 「三重県研究指定校等合同発表会」（2/25）にて、当事業の推進地区2市の取組を発表した。
- (2) 「実践事例集」を作成し、県内全小中学校に配付する。
- (3) 「名張市学力向上実践交流会」では、百合が丘小の実践発表を行い、学校を上げて学力向上に取り組む様子を共有した。また、実践交流では、「平成27年度 名張市における学力向上3本の矢」に関する各学校の取組を中心に交流し合い、学んだことを、各学校での実践につなげていくことができた。

○ 今後の課題

◆ 「各学校における知識・技能の活用を目指した授業改善サイクルの確立」に向けて

- (1) 全国学調の結果を活用した早期からの授業改善の実施

全国学調の自校採点を活用し、早期からの授業改善のPDCAが確立されるよう、採点研修会や学校訪問の充実等により、協力校での取組やその成果等の周知・普及等を行う。

- (2) 「目標（めあて・ねらい）の提示」と「振り返る活動」の周知・徹底

「目標（めあて・ねらい）の提示」と「振り返る活動」が位置付けられた授業が県内で広く行われるようになってきたものの、質的向上を図る必要もある。そこで、今後も指導主事や学力向上アドバイザー等の学校訪問や、国の調査官を招聘した研修会等により、今年度よりも充実したものとなるよう取組を促進していく。

- (3) みえスタディ・チェックの実施・活用

平成28年度は全国学調の実施日に合わせてみえスタディ・チェックを実施する。実施日を早めたことで、今年度よりもさらに早期からの授業改善が期待される。全国学調と同様に、みえスタディ・チェックについても自校採点を実施することで、早期に課題を把握し、授業改善につなげられるよう市町等教育委

員会や各小中学校を支援していく。

本県では、全国学調、みえスタディ・チェック、ワークシートの3点セットを活用した授業改善サイクルの確立に向けて、さらに活用されるよう、具体的な実践事例を収集し、県内すべての小中学校に発信していく。

◆「学校・家庭・地域が連携した学力向上の取組の推進」に向けて

(1) 学校・家庭・地域が一体となって学力の定着・向上を図り、課題解決に向けた取組の強化

引き続き、「みえの学力向上県民運動」を展開し、PTA等と一層の連携を図り、家庭における、学習習慣、生活習慣・読書習慣の確立に向けて具体的・実践的な取組の充実を図る。

チェックシートの取組については、実施後の保護者との情報共有及び児童生徒の生活指導等への活用のさらなる充実を図る。

(様式2)

「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究(小・中学校)」
平成27年度委託事業完了報告書
【推進地区】

都道府県名 (推進地域)	三重県	番号	24
-----------------	-----	----	----

市町村名 (推進地区名)	桑名市
-----------------	-----

○ 推進地区として実施した取組内容

1. 研究課題

〈研究課題〉児童生徒の活用力を育む授業づくり

〈 目標 〉学力定着に課題のある学校における、児童生徒の学力を向上するために有効な指導方法、指導体制を明らかにする。

2. 研究課題への取組状況

(1) 全国学力・学習状況調査とみえスタディ・チェック問題及び各調査結果、ワークシートを活用した授業改善への取組

・全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックについて、全教員で問題を解き、結果を分析し、指導改善の取組について分析した。そして、以下のように授業の重点を確認した。

○子ども同士での学び合いの場を設ける。

○指導過程を統一(課題・発問→個の思考→集団思考→まとめ)し、「めあて」と「ふりかえり」のある授業を展開する。

○反復(スパイラル)と個に応じた指導・支援により、基礎的・基本的な知識・技能を定着させる。

○算数的活動を充実する。

○言語活動を充実する。

○学習と普段の生活との関わりに気付かせるような働きかけをする。

・学習支援サポーターを派遣し、基礎学力の定着に課題のある児童の補充学習を実施

(2) 言語活動の充実

・子ども同士での学び合いの場において、話し合いの観点を整理して活動を行い、友だちの意見に関わって、根拠を明確にして自分の考えを発言できるように取り組んで

た。

- ・授業の中に、操作活動、体験活動、見つけたり調べたりする活動、自分で考えたことを説明したり表現したりする活動を行った。
- ・普段の様々な場面で子ども同士が伝え合うことを重視し、例えば、日常のあいさつをはじめ、「ことば」で伝えることを意識させ、丁寧に的確に伝え合えることを徹底した。
- ・教師自身が「豊かな言語環境」となるように心がけることに取り組んだ。

(3) 目標の提示と子どもによる振り返り活動の充実

- ・課題・発問→個の思考→集団思考→まとめ という指導過程を意識し、1時間1時間に「めあて」と「ふり返り」のある授業を展開した。

(4) 家庭学習の充実

- ・家庭学習ふり返り週間の取組を行った。「家庭学習の手引き」をもとに、学年に応じた家庭学習の内容を工夫し、自主的に復習したり、興味・関心に応じて調べ学習を行ったりできるように指導した。
- ・ノーゲームデー・ノーゲーム週間、読書習慣の取組では、学習・生活カードを活用して、自分とメディアとの関わりを見つめさせ、よりよい生活習慣ができるように励ました。日頃から家庭と連携して、基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん・読書習慣など）の徹底を図った。

(5) 全体提案授業事後検討会における指導・助言

授業研究会において次のことを確認し、全職員に取り組んだ。

- ・子どもの理解を定着させるためにも、数直線の学習を大切にしていける。問題を図にし、それを式にしていく。
- ・課題が子どもたちにとって分かりにくく、何を考えていくのかが分かっていないので、課題を設定する際には「生活に密着したもの」「比較できるもの」「既習事項とはずれが生じるもの」「答えがひとつでないもの」等を意識する。
- ・ペア活動・集団思考とも子どもの思考が深まっていなかったため、その改善方策として、時間管理も含め、必然性を持って、どのタイミングで入れていくか、目的を定めて取り入れる。
- ・間違いを教員がまず認めていく。ノートにコメントをしたり、授業で取り入れたりして、間違いがあったからこそ分かるようになったという経験をさせていく。

(6) 講演会の実施（就実大学楠博文准教授）

授業を参観してもらい、指導助言を受けた。その後、講演会を実施した。この講演会は、市内小中学校にも開催案内し、参加者を募った。

・講演内容

○「めあて」は子どもがつかむもの

- ・わくわくするスタートをする。「～をやる」ではなく、「～をやっているか？」と子どもたちの反応が出てから書く。
- ・自分が何を学ぶかを意識させる。

○「学び合い」の段階

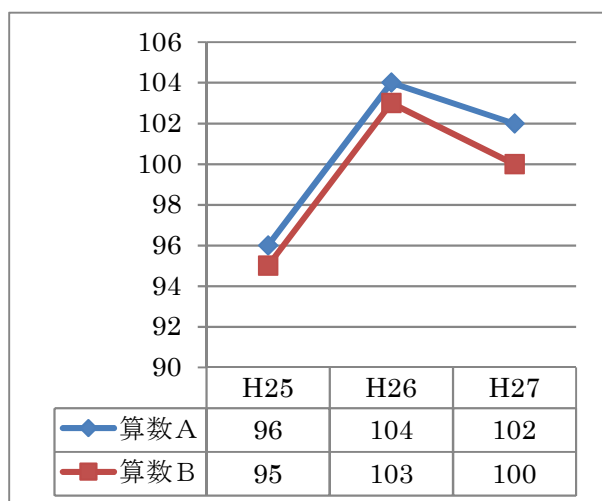
- ・相手を共感的に理解して伝え合う基礎力を育む段階。「〇〇さんはこう考えたのかな？」
- ・根拠をもって論理的に説明する批判的思考力を育む段階。「〇〇さんの考えで本当にいいのかな？」
- ・次に使える考え方を考え、数学的に考える力を育む段階。

○これからの教員に必要なこと

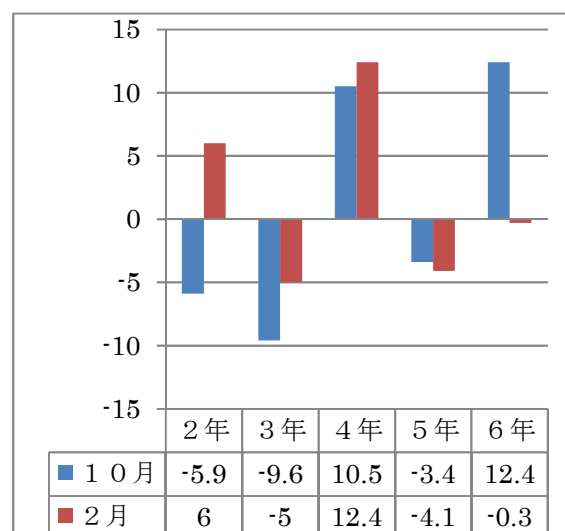
- ・主体的・協働的な子どもを育てる。
- ・小学校卒業時を目標とするのではなく、その先の社会を生きていく力をつけるために、10年先ではなく、30年先を見て、今何をすべきか考える。
- ・「みんなで話しあうと新しいものが見えてくる！」と思える活動を意図的、計画的に授業にいられていく。じっと座っているだけの時間を減らし、45分間ずっと算数のことを考える工夫をする。
- ・子どもの前に立つ教員は、いつも笑顔でいきいきとしていなければならない。

3. 実践研究の成果の把握・検証

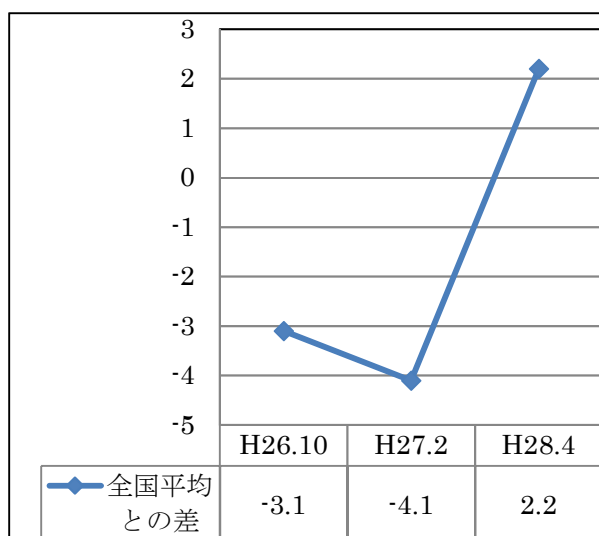
①全国学力・学習状況調査（標準偏差）



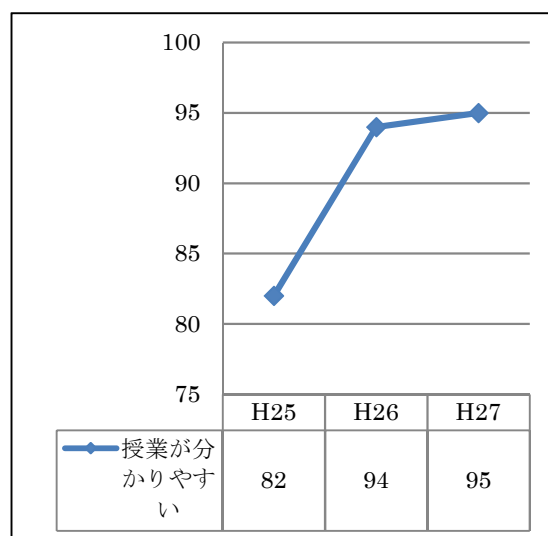
②みえスタディ・チェック（県平均との比較）



③5年生から6年生への変化



④児童アンケート



①のグラフは、全国学力・学習状況調査における標準偏差の経年変化である。調査が開始された平成19年度より課題が見られた多度北小学校であるが、平成26年度調査では飛躍的に数値が向上した。平成27年度については、数学A問題で2ポイント、数学B問題で3ポイント下がったが、昨年に引き続き平均を超えることができた。

②のグラフは、平成26年度から始まった三重県の独自調査みえスタディ・チェックの算数の件の平均正答率との差である。このグラフは、昨年度の10月と2月の県平均との比較である。2・3・4年生で差が縮まった。算数に苦手意識を持つ程度が低いのか、低・中学年は、研究の結果がより表れた。

③のグラフは昨年度5年生のみえスタディ・チェック結果と今年度6年生の全国学力・学習状況調査結果の変化を見たものである。同じ調査ではないので単純に比較はできないが、活用力を測る調査として、今年度に改善されているのが分かる。

④は、児童アンケートの結果である。「授業が分かりやすいですか」という質問項目において、肯定的な回答をする児童が年々増えつつある。教員による授業改善や学習支援サポーターによる支援の成果も大きかったと考えられる。1・2年生の算数アンケートでは、「算数の授業は分かる」の質問項目に対して、全児童が肯定的な回答をしていることは、特に大きな成果である。

4. 今後の課題

授業の基本的な流れについて、昨年度から共通理解を進めた。今年度は「課題・発問→個の思考→集団思考→まとめ」という指導過程を意識したことや、課題解決のための具体的な工夫について研修を深めたことで、何よりも教師の意識が変わってきた。1時間1時間に「めあて」と「ふりかえり」のある授業を展開するために、その「めあて」を達成するためにどのような課題を設定するか、ペア学習やグループ活動はどのタイミングでどんな目的をもって行うかについて、一人ひとりが深く考えて授業を行うことができた。

特に、外部講師を協力校に招聘し、授業参観及び指導・助言を行ったことは、大変効果があった。具体的な児童の姿から授業を見直し、教材研究の方法や教員としての心構えについて話を聞いたことで、次の日からすぐに役立てることができた。この研修会は公開授業研究会と位置付け、市内の小中学校からの参加を募ったことで、参加した教員に還流することができた。

今後は、この協力校での実践や成果について、市内全校の研修担当者が集まる会議等で広く周知し、市内全体の学力を向上させていきたい。

(様式2)

「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究(小・中学校)」

平成27年度委託事業完了報告書

【推進地区】

都道府県名 (推進地域)	三重県	番号	24
-----------------	-----	----	----

市町村名 (推進地区名)	名張市
-----------------	-----

○ 推進地区として実施した取組内容

1. 研究課題

全国学力・学習状況調査の結果等から本年度当初の本市の課題を挙げる。

<教科に関する調査結果から>

(小学校)

国語，算数ともに，平均正答率が全国平均を下回る結果となっており，国語では，分かったことや疑問に思ったことを整理し，それらを関係付けながらまとめて書くことなど，特に「書くこと」の領域に課題が見られた。算数では，全体的な傾向として，言葉や式，数字を用いて記述することなど，特に「数量関係」の領域に課題が見られた。

(中学校)

国B問題では，他の領域に比べて「書くこと」に課題が見られた。また，文章を読んで自分の考えを持つことや，複数の資料を比較して読んで要旨を捉えること，自分の考えを的確にまとめることに課題が見られた。数学では，4領域ともバランスよく習得できていたが，数学的事象と日常生活とを結び付けて考えることに課題が見られた。

<児童生徒質問紙調査結果から>

教科への関心・意欲に関して，小学校においては，全国平均とわずかな差はあるものの，国語は高く，算数は低い傾向があった。中学校においては，数学が全国平均と比較して顕著に高く，それが全国学力・学習状況調査の平均正答率の高さに大きく影響していると考えられた。授業内容・方法については，授業に，話し合う活動を取り入れている割合は，全国平均と比較して高くなっているが，平均正答率との関連を見ると，そのことが学習内容の定着に結び付いているとは言い難い結果となっていた。

生活習慣に関しては，携帯電話やスマートフォンの所持率は，小学校6年生で約60%，中学校3年生で約85%と，いずれも全国平均より高く，使用時間についても全国平均を上回っている。また，家庭学習については，家庭での計画的な学習や，読書に要する時間等，家庭における時間の使い方に課題が見られた。

2. 研究課題への取組状況

名張市教育委員会としては、5月に所管の小学校14校、中学校5校に学校訪問を行い、授業参観をするとともに、学力向上等に関しての学校の取組方針を聴取及び指導した。また、折に触れ、各学校の校内研修会等に参加し、具体的な授業の進め方等について指導してきた。

また、各学校に対して、以下の「平成27年度 名張市における学力向上への取組」を示した。（一部抜粋）

「平成27年度 名張市における学力向上への取組」（一部抜粋）

2 今年度の取組の方針

名張の子どもたちの確かな学力の向上をめざし、「教科に関する調査」や「児童生徒質問紙」「学校質問紙」の結果から明らかになった課題を解決していくため、今年度も昨年度に引き続き、次の3点について取り組んでいきます。

- (1) 学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れることにより、児童・生徒に学習への見通しを持たせたり、意欲を向上させるとともに、学習内容の確実な定着を図る。
- (2) 基礎的・基本的な知識や技能の習得に加え、B問題の調査結果で明らかになった課題の解決に向け「書く活動」を中心とした言語活動の充実を図ることにより、児童生徒の思考力・判断力・表現力を育成する。
- (3) 計画を立てて、自主的に家庭学習ができるような、学習習慣を確立する。

3 各学校における具体的な取組

(1) めあての提示と振り返りのある授業

① めあてを提示します。

- ・子どもたちに学習への見通しを持たせ、学習意欲が高まるようなめあてを設定します。
- ・本時の学習で、どんなことができるようになるのか、具体的に意識させます。

② 振り返る活動をおこないます。

- ・学んだ内容の整理・確認により、学習内容を定着させます。
- ・書く活動を取り入れることにより、思考力、判断力、表現力を育成します。
- ・学習の達成感を持たせることにより、学習への意欲を向上させます。

③ ①②をより効果的にするために、次のことに留意します。

- ・考えさせる時間を確保します。
- ・グループでの伝え合いの場を効果的に設定します。
- ・指導と評価の一体化に努めます。（指導内容に合致した教員の明確な評価基準、子どもたちによる相互評価）
- ・学力定着を図るために、全国学力・学習状況調査の過去問、三重の学Viva!!（まなびば）セット等に取り組みます。

(2) 日常的な言語活動の充実

① 指導内容に応じた言語活動を設定します。

- ・指導の過程における書く活動の明確な位置づけをします。
- ② 子どもたちが意欲的に取り組めるための指導の手立てをもちます。
- ・課題設定の明確化
 - ・書く相手や目的，意図
 - ・書いたものを基にした交流
 - ・モデル文の提示
 - ・文章の構成の仕方
 - ・書くことに関する基礎技能の育成（視写，聴写）など
- (3) 充実した家庭学習
- ① 学習内容や方法を工夫します。
- ② 「家庭学習の手引」等を活用します。

また，一人ひとりの教員への周知を図るために，右の，「平成27年度 名張市における学力向上3本の矢」を示し，「めあての提示と振り返りのある授業」，「日常的な言語活動の充実」，「充実した家庭学習」の徹底を図ってきた。

3本の矢の中心に，「学習規律の確立」を，また，三重県教育委員会がすすめる，全国学力・学習状況調査等を活用した取組が進むように併せて掲げた。

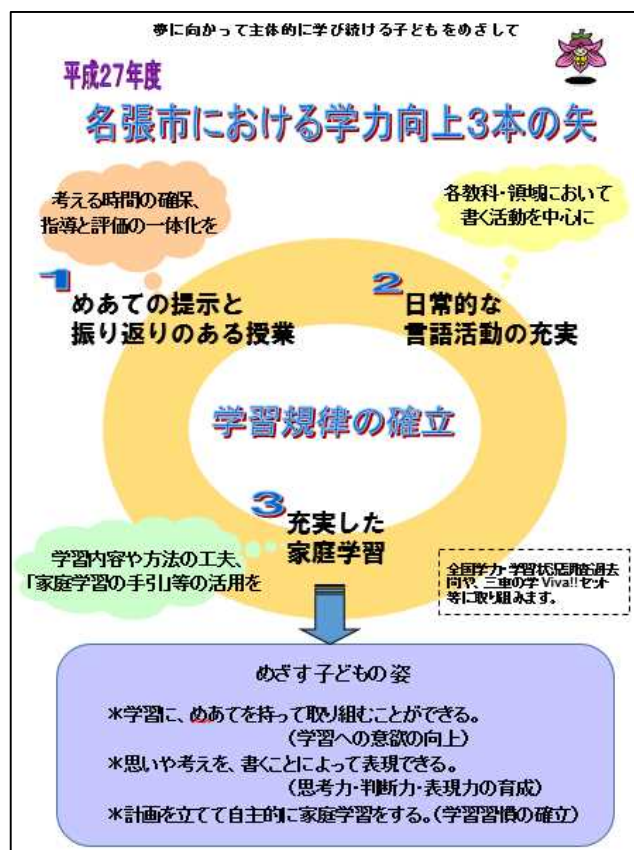
本市では，教育委員会，各学校の教育研究の中心となる教員，管理職の代表等で構成する，「名張市学校・園教育研究推進委員会」を組織しており，年間5回の会議を開催し，実践交流等を定期的に行ってきた。また，本委員会が中心となって，「平成27年度学校・園教育研究集会」を開催し，各学校の実践研究について交流した。

さらに，本市の教育における喫緊の課題を解決するために現場の実践研究を行う，「グループ研究」も年間8回開催した。

また，本市における学力・体力向上に関する会である，名張市「学力・体力」調査活用検討委員会主催で，「名張市学力向上実践交流会」を開催し，「平成27年度 名張市における学力向上への取組」に関する取組状況等を交流するとともに，学力向上に向けた講演会を行った。

3. 実践研究の成果の把握・検証

本年度当初に行われた，全国学力・学習状況調査の結果で，昨年度と比較した全国平均とのポイント差は，



- ・小学校国語 −4.6ポイント<平成26年度> → −0.4ポイント<平成27年度>
- ・小学校算数 −3.9ポイント<平成26年度> → −1.2ポイント<平成27年度>
- ・中学校国語 −0.9ポイント<平成26年度> → +0.7ポイント<平成27年度>
- ・中学校数学 +2.2ポイント<平成26年度> → +0.5ポイント<平成27年度>

となっており、小学校では国語・算数ともに全国平均との差が縮まり、中学校では国語・数学ともに全国平均を上回るという、全体的な改善が見られた。

各学校では、それぞれ分析を行うとともに、年度当初から、「平成27年度 名張市における学力向上への取組」に基づき取組を進めた結果、以下のような成果が現れている。

- ・授業で、「めあて」と「振り返り」を書かせることで書くことへの苦手意識が少なくなってきた。
- ・どの教科の授業でも最初にめあてを提示し、最後に振り返りの活動を取り入れている。そのために、生徒たちがその一時間の内容を自覚して授業に臨めるようになってきた。
- ・少ない字数の作文をくり返し書かせることで、字数制限のある文章が書けるようになってきた。
- ・単元の終わりに書く活動を行うことで、書く工夫ができるようになってきた。
- ・基本的な計算のくり返しを積み上げてきた成果が見られた。
- ・板書を工夫し、ノート指導を行ってきた結果、自分なりに工夫してまとめることができる児童が増えた。
- ・過去の全国学調の問題やワークシートに取り組むことによって、「書く力」が向上した。
- ・なかまの力を活用しようとグループ学習を取り入れている。これまで取り組もうとしなかった生徒が取り組む姿が見えてきたり、内容が分からないと感じている生徒が聞いたりしている様子も出てきている。
- ・いろいろな意見を受け入れるということを指導してきた結果、自分の意見や考えを言おうとする児童が増えた。
- ・無言清掃を始め、今年度も引き続き取り組んでいることもあり、生活面で集中力と落ち着きが出てきていることも学習に影響を与えている。
- ・高学年で「自学のすすめ」を配付し、自主学習を家庭で行うように指導したため、予習・復習を行う児童が増えてきた。
- ・毎日、5教科のうち1教科ずつ「家庭学習」として課題を出し、次の日に提出させている。授業の補足的な学習や予習・復習になるほか、課題によっては応用力の定着もめざしている。
- ・期末テストの前には、技能教科の課題も出題し、この取組によって、多くの生徒は家庭で学習する習慣が定着しつつある。

名張市学力向上実践交流会では、百合が丘小学校の実践発表を行い、学校を上げて学力向上に取り組む様子を共有した。また、実践交流では、「平成27年度 名張市における学力向上3本の矢」に関する各学校の取組を中心に交流し合い、学んだことを、各学校での実践につなげることができた。

4. 今後の課題

全国学力・学習状況調査の学校質問紙調査と児童生徒質問紙調査を比べてみると、学校質問紙調査では、授業の冒頭での目標の提示や振り返りの実施については、小学校、中学校いずれも100%に近い回答だが、児童生徒質問紙調査の結果からは、依然捉え方に差があることから、児童生徒にとってより主体的な学びとなるよう、さらなる改善が必要である。

国語では、情報を読み取ったり要旨を読み取ったりすることに課題が見られ、算数では、全国とのポイント差は縮まってきてはいるものの依然としてA・B問題ともに全国平均を若干下回っている。また、理科では観察・実験等を工夫し、理科の学習をより児童生徒が主体的に学べるものに改善していかなければならないといった課題もある。

家庭生活に目を向けてみると、スマートフォンの所持率が高く使用時間が長い、地域社会への関心が薄いといった課題もある。

そこで、本市においては、間もなく策定する、「第二次名張市子ども教育ビジョン」の方針に基づき、さらなる学力の向上に向け以下の取組を進めていこうとしている。

○小中一貫教育の推進

義務教育9年間を見据えた教育課程を編成し連続性のある一貫した指導を行い、小中学校間のギャップを解消し、子どもの心理的・身体的な発達段階に応じたきめ細かな指導・支援を行うことにより、基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力をはじめとする子どもの学力向上を図る。

○教教員の指導力の向上

学力向上に向けた効果的な指導方法を全教教員で共有し、「めあてと振り返りのある授業」、「言語活動の充実」等に取り組む。

教育センターの研修講座を体系化し、社会の情勢や学校の教育課題を考慮した満足度・活用度の高い研修を実施し、教教員の力量を高める。

○名張版コミュニティ・スクールの創設

子どもたちの家庭生活では、依然としてスマートフォンの所持率が高く使用時間が長い、読書の習慣が付いていない、地域社会への関心が薄いといった課題がある。そこで、これまでの家庭学習定着の取組はもとより、ファミリー読書の推進、食生活の改善、あいさつの習慣化などについても、学校と家庭が連携を深め、取組をすすめていく必要がある。

このことを中心となるのが、学校が地域コミュニティの絆、生きがいくりの核となる名張版コミュニティ・スクールであり、学校、家庭、地域がともに知恵を出し合い、地域づくり組織等と連携・協働しながら子どもの豊かな成長を支えていけるよう取り組んでいく必要がある。

(様式3)

「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究(小・中学校)」

平成27年度委託事業完了報告書

【協力校】

都道府県名 (推進地域)	三重県	番号	24
-----------------	-----	----	----

協力校名	三重県桑名市立多度北小学校
------	---------------

○ 協力校として実施した取組内容

1. 協力校における学力に関する課題

多度北小学校の全国学力・学習状況調査の状況について、平成25年度はその全てで全校平均を下回る、平成26年度は国語ABともほぼ全国平均、算数ABとも高いという結果であった。平成25年度から大きく向上した要因として、児童質問紙の比較・分析から、「生活習慣・学習習慣」や「学ぶ意欲」の向上が考えられる。平成26年度は基本的な生活習慣や規範意識、夢や目標を持ち努力することなどが身につけている児童の割合が高く、それらが学力の定着に結びつく結果となった。しかし「自分で計画を立てて勉強する」が9.1%とかなり低く、主体的に学ぶ意欲には課題が見られた。家庭と連携しながら児童の学習意欲を育むことや「学ぶことが楽しい」と思える授業づくりを行うことが本校の目指す方向であり、家庭学習のあり方や子どもの意欲を高める授業改善や指導力の向上の研究に取り組み、校内研修の活性化に努めていきたいと考えている。

校内研修については、平成26年度から算数を窓口にも子どもの学習意欲や思考力を高める授業づくりを推進している。「課題一個の思考—集団思考—まとめ」の学習過程やペア・グループ学習などで自分の考えを伝え合う場面の設定など授業の共通スタイルを決め、学校全体で本校の課題克服に向けて取り組んでいる。今後さらに教科の本質を捉え、自ら考え話し合って学び合う楽しさを味わわせる授業の創造を目指して研修を深めることが重要である。

2. 協力校としての取組状況

■子どもの意欲を高める授業改善の実施

平成26年度より算数を窓口として、「自ら思考し学び合う子の育成～みんなで課題を追求する授業を通して～」を研究テーマに研修を進めている。

力点としては、①思考力を育むための活動や発問を工夫する。

(深い教材研究、課題や発問の工夫、めあてと振り返り)

②みんなで学び合い、わかり合う活動の場を工夫する。

(算数的活動の工夫、ペアやグループによる話し合い活動)

具体的には以下の点について授業を見直し、改善を図った。

- ◇教材研究を深め、子どもの多様な考えが生み出される問題を考える。
- ◇問題・課題→自力解決→話し合い→まとめ という指導過程、1時間1時間に「めあて」と「ふりかえり」のある授業を展開する。
- ◇子ども同士での学び合いの場を設ける（ペア学習・グループ学習）。話し合いの目的をはっきりさせて意見を出し合い、よりよい考えを見つけるようにする。
- ◇算数的活動や具体物・半具体物、教具、ホワイトボードを活用する。操作や視覚化することで、考えを引き出し話し合いしやすい場を作る。

5年生算数「小数のわり算を考えよう」の小数でわるわり算の場面では、授業者は子どもが安易に計算し小数点を付ける場所を間違えてしまうことを予想した。そこで、それでは問題の場面に出てくる数が合わなくなることを元に学習を進めようと考えた。正答と子どもの発想とのずれを授業の考えどころにすることで子どもの考える意欲を引き出すことができた。

3年生算数「□をつかって場面を式に表そう」では、児童が問題を個々で考えた後、3人グループになってどのように考えたのか意見を出し合った。子どもたちは全体で話し合うよりも意見を言いやすく、わかった子はごく自然にわからない子に説明しながら教え合った。またグループ毎にホワイトボードに図や式をかくことで説明もしやすく、全体の発表にも活かすことができた。



■講師を招聘した授業観察・講演会の実施



7月と12月には、就実大学（岡山県）より楠准教授を招聘し、授業観察と講演会を開いた。

研修を深めるには、窓口としている算数の本質的な楽しさや価値を教員自身が知り、教材研究を充実させることが重要である。楽しく子どもが主体的になる魅力ある算数の授業づくりについて、当日本校で参観して頂いた実際の授業場面を例にしながら講演いただいた。授業で扱う内容を詳しく分析し、子どもが考えたいくなるような場面や問題を考えたり、子どものやる気を引き出すような発問を工夫することなどを丁寧に教えて頂いた。「わかった！」と子どもの目が輝くような授業を目指して、深い教材研究に基づく授業展開や教材・教具、活動を工夫し、一人ひとりの表情やしぐさからも思いや考えを読み取って温かい言葉がけ・関わりができる教員でありたいという思いをさらに強くした。

■学習支援サポーターの活用

指導体制の工夫として学習支援サポーター（退職校長）を導入した。学習支援サポーターは、月1回ずつ各学級の算数の授業にTT体制で入り、児童の学習支援にあたった。また、長年の教育経験を活かして、授業や学級経営について教員への助言も行い、アドバイザーの役割も果たしている。児童にとって自分に合った声のかけ方や個別指導をしてくれるので、授業がわかりやすくなるとの子ども声がある。

■家庭での学習習慣の充実

学習習慣・生活習慣や学ぶ意欲の育成を目指して重点的に以下の取り組みを保護者との連携を大切にして継続して進めた。

◇家庭学習振り返り週間の取組

「家庭学習の手引き」をもとに学年に応じた内容を工夫し、自主的な学習態度を育てる。

◇ノーゲーム週間、読書週間の取組

学習・生活カードを活用し、家庭と連携して基本的な生活習慣を育む。

家庭学習振り返り週間は毎月1週間、ノーゲームは年間2回、読書週間は年間1回の家庭での取り組みで、それぞれ頑張りカードを作成し学校と家庭でコメントを書きながら家庭での学習環境の充実を図った。

家庭学習の手引き

～すすんで学ぶ子どもを目指して～
家庭と学校が協力して学びの環境を整え、子どもの「学ぶ力」を育てていきたいと思います！

生活リズムを！
「早寝早起きをす」朝食をきちんと食べるなど、規則正しい生活リズムが日々の子どもの生活を充実させ、家庭学習の習慣化につながります。

「がんばり」を見のがさずに！
子どもの学習に目を向け、必要な声かけや見届け（点検）を行いましょう。ねばり強い努力を本気でほめましょう。

勉強時間を決めて！
最初は短く、だんだん長く。目安は、10分×学年です。テレビを見ながら、おやつを食べながらはやめましょう。

すすんで学ぶ好奇心を！
身のまわりや社会の出来事に目が向くように働きかけましょう。PTA行事や地域行事への参加を勧めましょう。

読書に親しむ！
まずは家庭での読書や読み聞かせをしましょう。図書館や書店で本との出会いも楽しいものです。

情報（インターネット）との正しいつきあひ方を！
役に立つ道具ですが、同時に危険性もあわせてもっています。ルールを守り、家族の目の届くところで楽しく使わせましょう。

いっしょに家事を！
家族の一員としての責任感と自立心を育てましょう。家族が協力して家事を行うことで、それぞれの大切さを学びます。

先生と連絡を！
わからないこと、こまったことは、遠慮せずに先生に相談しましょう。子どもたちのことを、先生といっしょに考えていきます。

— 多度北小学校 —

1・2年生

こんな時期です
学習時間のめやす 10～20分

「育ち」や「学び」の特徴

- 一人で学習を進めるのはむずかしく、家族の手助けや見守りが必要
- 「やったね！」「がんばったね！」のほめ言葉が、意欲を生み出します
- いろいろなことに興味・関心を持ち、何でも知りたがりです
- 「早寝早起き」「しっかり朝食をとる」「朝の挨拶」「正しい姿勢で座る」などの基本的な生活習慣が身につくと、学習の習慣も身につきます
- 先生とも十分連携が必要です。必要なことは相談しましょう。

学習内容の特色（学校で）

- 「読み、書き、計算」など、基礎的・基本的な内容を学習します。
- 45分間授業を基本とし、先生の話をしっかりと聞いて学習します。
- 生活と結びついた学習が多く、具体物を使ったり、実際に体験したりします。
- 「正しい姿勢で座る」「鉛筆を正しく持つ」「明日の学習を準備する」「整理整頓をする」ことも基本となる学習です。

家庭学習
こんな内容・方法で

国語

- 楽しみながら、すらすらと読めるように毎日練習しましょう。
- 句読点（「、」や「。」）に気をつけて、大きな声ではっきり読みましょう。

漢字

- 正しい姿勢で、ていねいにゆっくり書きましょう。
- 漢字の形や意味、読み・はらいに気をつけて書きましょう。

算数

- あせらず、ゆっくりでも正確に計算できるようにしましょう。
- 正しい計算手順が確実に身につくように、繰り返し練習しましょう。
- （1年生）たし算・ひき算、2年生）かけ算
- 間違った問題は、必ずもう一度やり直す習慣をつけましょう。

リコーダー

- 「日記」・・・身のまわりのくらしを見つめて、ゆつたり考えたりしたこと・・・
- 「調べ」・・・家族やイングリッシュ、自分の興味のあること
- 「発見」・・・図鑑や辞書で調べたこと、詩や物語
- 「お手伝い」

基本的な学習習慣をきちんと身につける。

3・4年生

こんな時期です
学習時間のめやす 30～40分

「育ち」や「学び」の特徴

- 自立心が芽生え、自分でやろうとすることが多くなり、「やる気」や「根気」が育つ時期です。好奇心も旺盛で、行動範囲も広がります。
- みんなと行動することを好むとともに、口答えや反抗が少しずつ見られるようになります。
- 学習内容が増え、「勉強がむずかしくなった」という戸惑いや困り感が出てくる頃です。がんばりや伸びを認める励みや褒めが大切です。

学習内容の特色（学校で）

- 「総合的な学習の時間」や「社会」「理科」の学習が始まり、学習する内容も大きく広がります。
- 国語辞典や漢字辞典、地図帳などの使い方を学び、自分で調べる学習をすることが多くなります。自学自習の基礎を身につけます。
- 新しい漢字をたくさん習います。（3・4年生とも200字ずつ）
- 算数では、分数や小数など、少しずつ抽象的な内容を学び始めます。
- 四則計算（ $+$ ・ $-$ ・ \times ・ \div ）の基礎・基本を徹底して学びます。

家庭学習
こんな内容・方法で

国語

- 毎日、自読する習慣をつけましょう。
- 場面や人物の気持ちや表現がわかるように読みましょう。

漢字・意味調べ

- 正しい書き方で「はね、はらい、とめ」に気をつけて書きましょう。
- 国語辞典や漢字辞典を手元におき、使いましょう。

算数

- いろいろな種類の本を基に読みましょう。
- 家庭学習に取り組む、家族で一緒に読みましょう。

リコーダー

- 日記・・・身のまわりのくらしを見つめて、ゆつたり考えたりしたこと・・・
- 調べ・・・家族やイングリッシュ、自分の興味のあること
- 発見・・・図鑑や辞書で調べたこと、詩や物語
- お手伝い

自主的な学習習慣を育てる。

5・6年生

こんな時期です
学習時間のめやす 50～60分

「育ち」や「学び」の特徴

- 一人前に扱ってもらっているか、大切にされているかなど、大人の評価が気になります。ときには、大人への反抗も見られます。
- 自分を客観的に見つめたり、友だちと自分を比べたりするようになります。
- 学習では、得意な教科と苦手な教科を整理し始めます。
- 先生や家族のアドバイスにより、学習に対する意欲や興味・関心が大きく左右されます。

学習内容の特色（学校で）

- 「家庭科」の学習が始まり、衣食住の基礎・基本を学びます。
- 学習内容が多くなる上、社会や世界に目を向けたい学習も始まります。
- 活字を立てて考える論理的な内容の学習や抽象的な内容の学習が増えてきます。
- 自分で課題を見つけ、解決していく学習（問題解決的な学習）が多くなります。
- 自ら学ぶことのおもしろさや楽しさを経験させ、「学び力」や「もの考え方」を育てます。

家庭学習
こんな内容・方法で

国語

- 漢字を思い浮かべながら気持ちを込めて読むなど、自分のためて読めて練習しましょう。

漢字・意味調べ

- 漢字の構成や字形を整理して練習しましょう。
- 習った漢字を使って、熟語や短文を作りましょう。
- 国語辞典や漢字辞典を手元におき、積極的に使いましょう。

算数

- いろいろな種類の本をたくさん読むよう心がけましょう。
- 「日記」を選んで読み、生活力について考えましょう。

リコーダー

- 日記・・・くらしや家族、友だちの関わりを見つめて、ゆつたり考えたりしたこと・・・
- 調べ・・・資料集やインターネット、自分の興味のあること
- 発見・・・図鑑、歴史上の人物、詩や物語
- お手伝い

計画し、自学自習の習慣を身につける。

■学校での学力向上の基礎づくり

◇反復（スパイラル）により，基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる。

◇学級づくり・仲間づくりの取組：

「わからない」と言える安心感のある学級・わかり合える喜びを味わえる仲間づくり

◇日常的に読書や詩の暗唱などの機会を作り，読む・聞く・話すことで語彙力や表現力を高める。（朝の読書・詩の暗唱，音読，群読発表，お話教室など）

お話教室では，3，4年生がグループを作り，全校と保護者に向けて読み聞かせを行った。読む練習だけでなくいかにしたら楽しく聞いてもらえるか時間を計り役割分担を工夫しながら，準備を進めた。発表の場を作ることでめあてを持って取り組み，喜んでもらったことで充実感を得て，次の活動への意欲につなげることができた。



3. 取組の成果の把握・検証

○ 学校として授業の共通スタイルの統一だけでなく，子どもが主体となる授業の共通のイメージを教員が持つことができた。イメージしたよりよい授業を目指して日々の授業を工夫する教員の姿が見られている。

（授業の共通のイメージとは，「授業では，子どもが自らめあてを持って考え，友だちと意見を出し合う中で一人ひとりの考えを深める。そして授業の最後には，めあてにしていたことについてまとめる。」こと）

○ 学習支援サポーターの活用により，一人ひとりの児童にきめ細かく支援を行うことができた。結果として，わかる喜びを味わい，学習意欲を高める児童の姿を確認することができた。

○ 平成27年度全国学力・学習状況調査の結果では，全国平均と比べ算数Aは高い，算数Bは同等となった。同じ児童を対象にして平成26年度にCRTで検査した算数の結果は，全国比73であったことから考えると，今年度の全国学力・学習状況調査の結果は，全国平均と比べて評価できる結果となった。

○ 今年度のみえスタディ・チェックの結果は，5年生において，10月実施では国語・算数ともに県平均を下回っていたが，2月実施では国語は県平均との差が縮まり，算数は県平均を上回った。

○ 校内で行っている児童アンケート（12月）の項目の中から結果をみると

・「授業がわかりやすい」 H26：95% → H27：95%（そう思わない0%），

・「ペアやグループをふくめた話し合い活動で，自分の意見や考えを発表している」

H26：83%→H27：86%，

プラス評価の割合がわずかではあるが高まっている。

・「ふり返りカードを使って，学年×10分の勉強（読書を含む）を行っている」

H26：82%→H27：91%，

学習習慣や生活習慣の育成に関わっては，わずかに高まった。

4. 今後の課題

今年度、子どもの学習意欲と思考力を高める授業イメージを教員が実感し共有できたことは、めざす授業への具体的な目標となった。さらに深い教材研究を基盤とした授業の創造をめざし、よりよい授業事例を積み重ねながら研修を深めていくことが重要である。そして日々の授業をさらに充実したものにすることや学習支援サポーターのさらなる有効な活用方法を探ることなど日々の学習活動を充実させながら、児童の学力向上につなげていきたい。また、家庭との連携を密に、学力の土台づくりにも粘り強く取り組んでいきたい。

「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究（小・中学校）」

平成27年度委託事業完了報告書

【協力校】

都道府県名 (推進地域)	三重県	番号	24
-----------------	-----	----	----

協力校名	三重県名張市立すずらん台小学校
------	-----------------

○ 協力校として実施した取組内容

1. 協力校における学力に関する課題

本校の、平成26年度全国学力・学習状況調査（以下、「全国学調」という。）の結果は、全ての項目において全国及び三重県の平均正答率を下回っていた。国語では、資料や文章を読み取り自分の考えを記述する問題の正答率が低く、算数では数量関係の領域や割合について苦手意識を抱く児童が多い傾向が見られた。特に、文章を読み取り、解き方や計算の仕方を考える問題の正答率が低く、課題が見られた。

児童質問紙調査では、「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」児童の割合が高く、行事や学級活動に意欲的に取り組むことで、自己有用感を高めることができていた。また、「将来の夢や目標をもっている」児童の割合も高く、そのことが様々な活動の意欲につながっていた。これらの成果が見られた反面、「友だちに伝えたいことをうまく伝えることができる」児童の割合が低く、思いを伝え合うことが苦手な傾向にあった。また、「家で宿題をしている」割合は高いが、宿題以外の家庭学習をしている割合は低く、テレビやビデオを見たり、テレビゲームをしたりする時間が長くなっていた。

また、少人数による授業、個に応じた指導により「国語の勉強が好き、よくわかる」、「算数がよくわかる」と回答している児童の割合が高く、意欲的に授業に取り組もうとする様子が見え始めたものの、学習内容の定着という点においては課題が見られた。そこで、授業における振り返りの習慣化を徹底するとともに、低学年段階からの学習規律の確立に努めるとともに、学習の積み重ねを大切にしたい取組を展開していく必要があると考えた。

2. 協力校としての取組状況

(1) 全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェック、ワークシートの3点セットの活用

平成26年度の全国学調結果をもとに、授業改善に取り組んできた。授業の始めに「めあて」や「学習の流れ」を提示すること、授業の終わりには「振り返り」を行うことを学校全体の統一したスタイルとして、授業の構造化に取り組んだ。

また、読む力が弱かった（算数の長文が読めずに無解答が見られたなど）ことから、読書活動に力を入れた。これまでも読書活動を推進してきており、本に対する興味・関心が高まってきている。今年度はもう一步進めて読書内容の充実と感想文等書く力の育成をめざして、各学年、課題図書（各学年10～15冊）を選定し、集団読書に取り組んだ。

10月に4・5年生がみえスタディ・チェックを実施すると共に、2・3年生もテストを実施した。また、みえスタディ・チェック等実施前にはワークシートを利用し、学習を行った。

(2) 効果的な少人数指導の取組

5年生は少人数学級編制を実施し、3・4・6年生は、算数科で学級を2つに分けた少人数授業を実施した。担当教員二人で教材研究を行い、同じプリントを利用するなどして、連携を計った。昨年度は、私語や離席、また授業中のトラブルが頻繁に起こっており、今年度は、改善を図ろう

としてきた。

(3) 家庭・地域との連携

「家庭学習の手引き」を配付し啓発を行ってきた。さらに、全国学調の結果の公表と共に、チェックシートや学校独自の生活点検表を実施し、結果を保護者に伝えることにより、家庭での生活習慣を今まで以上に身に付けるよう啓発した。

(4) 学力向上アドバイザーの活用

校内研修会に参加頂き、アドバイスを受けた。さらに、教員は学期に1回は授業公開し、個人的に授業改善に向けてアドバイスを受けた。

3. 取組の成果の把握・検証

(1) 全国学調、みえスタディ・チェック、ワークシートの3点セットの活用

①全国学調の結果

ア 教科に関する調査結果より

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
26年度	61.2	44.1	65.2	43.8	—
27年度	72.3	70.1	76.2	45.2	56.1

国語・算数共に平均正答率が上がっている。さらに、無解答率は下がった。項目によっては苦手なところが見られるので、改善に取り組むことにした。

イ 児童及び学校質問紙結果の分析

「物事を最後までやり遂げうれしかったことがある」と回答した児童の割合が高い。学校行事や学級活動、また家庭や地域の行事等に意欲的に取り組むことで、自己有用感を高められたと考える。「自然のなかで遊んだことや自然観察をしたことがありますか」では、100%の児童が「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と答えており、本校の特色である自然豊かな地域の良さを表していると考えられる。

②授業の構造化の取組

授業の初めに「授業のめあて」及び「学習の流れ」を提示し、児童に、この時間で何を身につければいいのかということ意識させ、授業をスタートするとともに、授業の終わりの「振り返り」を行うことも全学年で進めるよう徹底した。このことにより、児童が意欲をもって学習に臨み、主体的な学習をすすめ、何を学んだのかしっかり意識して授業を終えることができるようになった。

めあてと振り返りを一体化した算数科のシート

国語科の振り返りシート

名張市が4年生を対象に行っている「名張市学習・生活アンケート」（平成26年度は2月実施，平成27年度は10月実施）の結果からは，対象児童は違うものの以下のような，やや改善した結果が表れていると考えている。

設問	「当てはまる」と答えた児童の割合	
	平成26年度回答	平成27年度回答
国語の勉強は好きですか	26.3%	21.4%
国語の授業の内容はよくわかりますか	42.1%	50.0%
算数の勉強は好きですか	47.4%	53.6%
算数の授業の内容はよくわかりますか	50.0%	57.1%

②みえスタディ・チェック（算数）の結果

	2年	3年	4年	5年
26年度	49.7	54.0	44.4	37.3
27年度	52.0	63.9	48.1	44.3

「みえスタディ・チェック」においては，2・3年生も時期を合わせて過去問により実施している。本年度，上記の授業の構造化等に取り組んだ結果，算数においては，平成26年度に比べ，問題が違うことを考慮しても，各学年ともに平均正答率が向上していることから，着実に学力の定着に結び付いていると考えられる。

(2) 効果的な少人数指導の取組

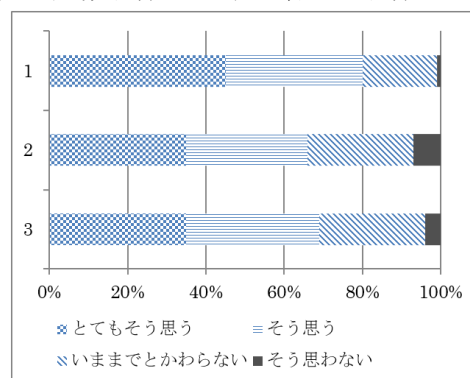
本年度はTTではなく，少人数クラスを実施することができた。打ち合わせの時間が十分にとれないなど課題はあったが，担当者2人で教材研究を行ったり同じプリントを利用したりするなどして連携を図った。また，単元毎にグループを変更することでより多くの児童と関わられるようにし，丁寧な声掛けをする中で，特別に支援を必要とする児童も落ち着いて学習できるようになってきた。この結果，昨年度は，私語や離席，また授業中のトラブルが頻繁に起こっていたものが，本年度は改善した。課題のあったクラスにおいては，少人数授業での落ち着いた授業をモデルとし，他の授業に広げるようにした。

(グラフは3・4・6年生へのアンケート結果)

- 1 少人数の授業で勉強がよく分かるようになりましたか。
- 2 少人数の授業は楽しいですか
- 3 少人数の授業はおちついて勉強できますか

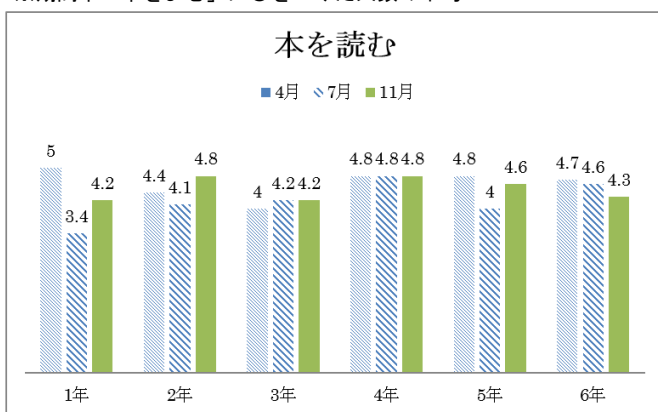
(3) 家庭・地域との連携

「家庭学習の手引き」を配付し，家庭学習の充実に関して啓発を行ってきた。さらに，全国学調の結果の公表と共に，チェックシートや学校独自の生活点検表を実施した結果を保護者に伝えることにより，家庭での生活習慣を今まで以上に身に付けるよう啓発した。特に，学期に一回，「ステップアップ週間」を設け，児童の学習習慣・生活習慣の改善を図った。



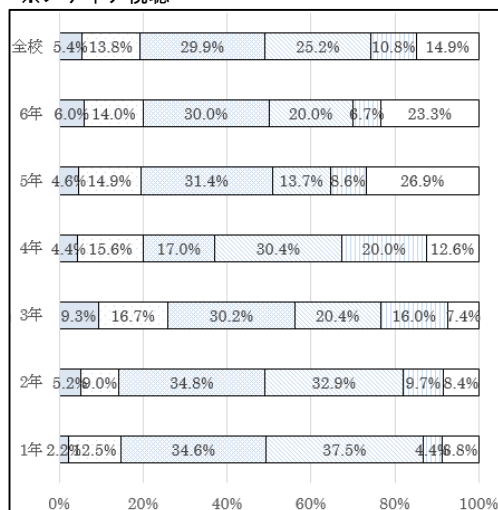
(チェックシートより)

※期間中「本をよむ」に○をつけた人数の平均



(生活点検表より)

※メディア視聴



- ①なし
- ②1時間まで
- ③1～2時間
- ④2～3時間
- ⑤3～4時間
- ⑥4時間以上

(4) 学力向上アドバイザーの活用

教員は学期に1回は授業公開し、授業改善に向けてアドバイスを受けた。

また、校内研修会にも参加頂き、アドバイスを受けた。7月の校内研修会では、アドバイスをもとに、各学級での読書指導の取組をより充実させること、授業の最後の振り返りを文字化することについて、具体的に取り組を進めていこうと全教員で確認することができた。これらの学力向上アドバイザーの活用により、教員の授業力は、徐々に向上している。

4. 今後の課題

授業の初めに「授業のめあて」「学習の流れ」を提示すること、授業の終わりに「振り返り」を行うことを学校全体の統一した授業の流れとして取り組んできたが、児童質問紙調査では「授業の最後に振り返る活動をよく行っている」と答えている児童の割合が全国平均より低くなっている。

少人数授業では、本年度はTTではなく、少人数クラスを実施した。打ち合わせの時間が十分にとれないなど、課題はあったが、2人で教材研究を行ったり同じプリントを利用したりするなどして、連携を図った。また、担任が受け持つグループと担任以外が受け持つグループでは児童理解において課題が見られたため、頻繁にグループを変更することでより多くの児童と関われるようにした。

学力向上アドバイザーについては、授業者との1対1の個人での話し合いで、親密に話し合える反面、全体へ広めることがうまくできないところがあった。

今後は、授業の振り返りを定着させるとともに、より児童に意識させるために記述させるように一層取り組んでいきたい。また、振り返りを意識した「めあて」の設定にも取り組んでいきたい。さらに、ペア学習・グループ学習の効果的な進め方についても研究し、学力向上のために取り入れていきたいと考えている。

「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究（小・中学校）」

平成27年度委託事業完了報告書

【協力校】

都道府県名 (推進地域)	三重県	番号	24
-----------------	-----	----	----

協力校名	三重県名張市立錦生赤目小学校
------	----------------

○ 協力校として実施した取組内容

1. 協力校における学力に関する課題

全国学力・学習状況調査（以下、「全国学調」という。）の結果等から本年度当初の本校の課題を挙げると、国語では、B問題の「二つの詩を比べて読み、自分の考えを書くことに関する問題」の平均正答率が比較的良好な結果であり、二つの詩の内容や表現の仕方などに着目した上で、共通点や相違点を取り上げて自分の考えを書くことができていたものの、平均正答率は全国平均を下回る結果であった。特に、「漢字の読み書き」「故事成語の使い方」の習得に課題のある児童が多く、「話すこと・聞くこと」については、目的や意図に応じて計画的に議論したり、話し合いの観点を整理したりする力に課題が見られた。

算数では、「単純な整数のたし算、かけ算」などは高い正答率であったが、国語と同様、平均正答率は全国平均を下回る結果であった。特に、A問題の「計算のきまり」「円周の求め方」の習得に課題のある児童が多く、個人差が大きい傾向が見られた。B問題では、グラフを読み取ったり、規則性を考えたりする問題の正答率が低いという結果であった。

今後は、問題文をしっかりと読みこなし、適切な表現を用いて解答を導くために、まず、基礎的・基本的な知識・技能を身につける必要があると考えた。

2. 協力校としての取組状況

(1) 全国学調、みえスタディ・チェック、ワークシートの3点セットの活用

本年度の全国学調の結果は、国語・算数ともに、ほとんどの領域で課題が見られ、全国の平均正答率を10パーセント以上下回っていたことから、基礎・基本の定着と自分の思いをまとめて伝えることのできる力をつけていく必要があることがわかった。

このことから、校内研修会で、強み・弱みについて共通理解するとともに、各学年でできる具体的な方策について考え、児童の弱みである書く機会を多くとったり、子ども同士がお互いの書いた文章を認め合ったりして書く力を向上させるとともに、文章の構成を考えて文が書けるよう指導をしてきた。さらに、ペア学習やグループ学習を取り入れることで、自分の考えを伝え合う力を高めることができるようにした。

また、基礎・基本の定着のために、午後の帯時間の「かがやきタイム」を活用して、個に応じ

た反復練習ができるように、各学年で内容を工夫して取り組んだ。朝の読書・読み聞かせも継続して取り組んできた。三重の学-Vivaセット等、当該学年のワークシートにも取り組んできた。

(2) 効果的な少人数指導の取組

算数については、基礎基本の定着のため、全学級毎時間2人以上で指導してきた。学級の実態に応じて、TT授業を行ったり、クラスを半分に分けて少人数授業を行ったりしてきた。

(3) 家庭・地域との連携

全国学調の結果について学校通信で全保護者に知らせるとともに、当該学年では説明会を開き、結果についての説明をして家庭学習の協力を呼びかけた。また、全児童に家庭学習の手引きを配付し、家庭学習強化週間をつくり、家庭学習の意識を高めることができるようにした。各学級担任も、日々の家庭学習について、児童一人ひとりに個別指導を行った。

また、全国学調の児童質問紙結果や生活習慣・読書習慣チェックシートの結果から、ゲームをしたりテレビやDVDを見たりしている時間がどの学年も多く、学校として課題であることがわかってきた。そこで、懇談会等で実態を保護者に話し、家庭での協力を呼びかけた。

(4) 学力向上アドバイザーの活用

めあてと振り返りを意識した授業を行い、すべての学級の授業を参観した後、学力向上に関わるアドバイスを個別や全体にってもらい授業改善に生かした。全国学調の結果が全国平均を下回ることが続いているという実態から、学校全体として授業改善の必要性があるという指摘をもとに、校内研修会では、学習規律の確立をはじめ、授業の質を上げる点についてアドバイスをもらった。

3. 取組の成果の把握・検証

(1) 全国学調、みえスタディ・チェック、ワークシートの3点セットの活用

全国学調、みえスタディ・チェックの採点を全教員ですることにより、児童の様子を学校全体で把握することができた。また、強み、弱みについても校内研修会で交流することにより、学校としての課題をはっきりさせることができた。

三重の学-Vivaセットのワークシート等を活用し学習することにより、問題のねらいを理解し解き方の見通しをもって取り組むことができるようになってきた。

研修の学力保障部会を中心に学力向上に向けて、学習規律の定着(声の大きさ、発表の仕方等)、朝の読書の充実、めあてと振り返りのある授業の実践等、全校体制で取り組んだ。全校体制で取り組むことにより、学習規律や授業形態等が整ってきた。

(2) 効果的な少人数指導の取組

全国学調でもみえスタディ・チェックでも基礎・基本の定着に課題のある算数の授業では、どの学級でも複数の教員による授業を実施した。TTで授業を行うことにより、きめ細かに子どものつまずきに対応することができた。

また、クラスを2つに分け、1クラスの人数を減らすことで、落ち着いて学習に取り組むことができた。さらに、児童一人ひとりの発言回数も増え、集中して学習に取り組むことができた。

(3) 家庭・地域との連携(全国学調結果の公表やチェックシートの取組を含む)

全国学調の結果を学校通信、学級懇談会で知らせることにより、保護者に実態を知ってもらうことができた。また、家庭学習習慣の取組をしたことで、保護者への啓発をすることができた。

(4) 学力向上アドバイザーの活用

全クラスの参観を受け、その日のうちに教員の視線、立ち位置、指示のタイミング等、具体的に授業改善ができるようアドバイスをしてもらうことで、教員自身の力となった。児童にわかりやすいめあてを提示することで評価につながる振り返りができるようにすること、全国学調の結果分析から、各学年でつける力を系統的に考え、学習指導要領に合わせてそれぞれの学年で指導すべきポイントを明確にすること等、具体的に指導を受け、各学年で取り組むことをはっきりさせることができた。

また、全教員がめあてと振り返りのある授業を意識して行うことで、子どもの意欲を高め、見通しをもった学習をすることができた。振り返りからは、個々のつまづきを把握することができた。

4. 今後の課題

本校の実態として、まだまだ基礎・基本が定着していないこと、書く力に問題のある子が多いことが課題として挙げられる。

今後、確かな力をつけていくために、特に次の点について、具体的な取組を検討し、繰り返し指導を続けていく必要がある。

- ・自分の考えを文章で表現する等、書く力をつける
- ・自ら学ぶ姿勢や、意欲を持続させる教材の工夫
- ・かがやきタイムの内容の充実

また、今後は、習熟度別授業を取り入れる等の工夫をしながら、効果的な少人数指導について検討していきたい。また、TTの活用の仕方を明確にし、学力向上につなげていきたい。

家庭との連携については、昨年度の家庭学習の実態として、平成26年度調査で、「家庭学習(宿題)に対して、自分から進んでやる習慣がついている」という問いに、29パーセントが、進んでやる習慣がついていないと答えている。また、「『家庭学習の手引き』に示された時間以上勉強している」と答えたのは63パーセントと、意識として低い実態があった。今年度は、前者は25パーセント、後者は67パーセントと少しは改善されたものの、昨年度とほとんどかわっていない。働きかけても、家庭の状況により、協力が得られないことが多いという実態もある。

今後も、粘り強く個々の児童に指導をしながら、保護者への啓発もしていきたい。その際、具体的な学習方法や協力してほしい内容について話ができるようにしたい。

また、ゲームの時間が長く、携帯電話の所有率も高い実態もある。ゲーム使用について保護者への啓発は行っているものの、なかなか改善されないという実態がある。今後、啓発方法、生活習慣・読書習慣チェックシートの見直しをし、改善できるようにしていきたい。

学力向上アドバイザーの活用については、教員はよい研修ができたが、それを子どもの学力に結び付けることができなかつた点があげられる。めあて、振り返りのある授業の実践もできてはいるものの、振り返りの時間が確保できなかつたり、内容の指導までできなかつたりという実態もある。今後、子どもが振り返りの中で達成感を持つことができるめあてとはどういうものなのか、教員自身が研修を深めていく必要がある。また、次のめあてにつながるような振り返りの質を高めていく必要がある。

以上のことを踏まえ、次年度は主に次の点をポイントにして学力向上を図っていきたい。

- ・効果的なめあての提示の仕方，振り返りのさせ方，振り返りの有効活用
- ・グループ活動の質の向上
- ・書く力をつける取組の工夫
- ・効果的な少人数指導，TT指導の在り方
- ・家庭学習充実のための手立て
- ・生活習慣・読書習慣チェックシートの見直し

「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究（小・中学校）」

平成27年度委託事業完了報告書

【協力校】

都道府県名 (推進地域)	三重県	番号	24
-----------------	-----	----	----

協力校名	三重県名張市立梅が丘小学校
------	---------------

○ 協力校として実施した取組内容

1. 協力校における学力に関する課題

全国学力・学習状況調査（以下、「全国学調」という。）の結果等から本年度当初の本校の課題を挙げると、国語、算数のA問題、B問題ともに、平均正答率は全国平均を下回った。この調査結果の分析から、国語科においては、基本的な漢字の読み書きはできるものの、国語辞典を使った言葉の意味や使い方の理解、情景描写の読み取り、資料を読み、条件に合わせての記述や自分の考えの記述などにおいて課題が見られた。また、算数科においては、基礎となる計算は力を付けてきているものの、円周を求めること、単位量当たりの大きさ、示されたグラフの目盛りの大きさや最大値、平行四辺形の描き方や特徴など、「量と測定」「図形」「数量関係」の領域での課題が見られた。

さらに、国語、算数いずれの教科においても、記述式の問題を依然として苦手としていることがわかった。

2. 協力校としての取組状況

本校では、学力向上に向けて、基礎基本を大切に授業、子どもの疑問や実態に合わせた魅力ある授業、ペアやグループで学び合える学習形態を生かした授業に取り組んできた。また、学習規律の徹底を図るとともに、家庭の協力を得ながら学習習慣の確立に向けての取組も継続してきた。

また、これらの取組が学級や学年での取組に留まらず、全校体制での取組が徹底される必要があるため、今年度は、学力向上に向けての取組を全校体制のものとなるよう「学力・体力向上検討部会」を設置し、日々の授業改善、学習規律の徹底、学習習慣の確立等を中心に取組を検討し、改善してきた。

(1) 全国学調、みえスタディ・チェック、ワークシートの3点セットの活用

学力向上に向けた「学力・体力向上検討部会」では、次のような点について全校での取組を決定し実践することとした。

①授業の改善に取り組む

- | | |
|-------------------|----------------------|
| ア 「聴く」姿勢を大事にした授業 | イ 「めあて」の提示と「振り返り」の活動 |
| ウ ノート指導（マイノートの活用） | エ 音読の徹底 |

②学習規律の徹底に取り組む

- | | |
|----------------|--------------|
| ア 学びのスイッチの切り替え | イ 学びのルールへの提示 |
|----------------|--------------|

③学習習慣の確立に取り組む

- | |
|-----------------|
| ア 「家庭学習のすすめ」の活用 |
|-----------------|

(2) 効果的な少人数指導の取組

基礎的基本的な事項の定着を図るため、また、一人ひとりによりきめ細やかな指導を行うためにTT形式の指導を取り入れた。

(3) 家庭・地域との連携

①学習習慣確立の取組

家庭での自主的な学習の手引き「学習のすすめ」を作成し、保護者・家庭の協力を願うことで家庭学習の習慣化を図ることとした。

また、全国学調の結果と分析結果を公表することとした。

(4) 学力向上アドバイザーの活用

学力向上アドバイザーにすべてのクラスの授業を参観してもらい、各クラスの担任にアドバイスをしてもらい時間を確保した。



かていがくしゅうのすすめ

3. 取組の成果の把握・検証

(1) 全国学調、みえスタディ・チェック、ワークシートの3点セットの活用

本年度の全国学調では、国語、算数のA問題、B問題とも、平均正答率は全国を下回った。この調査結果の分析から、国語科においては、基本的な漢字の読み書きはできるものの、文の内容を読み取ったり、大事な箇所を書き抜いたりするところに課題が見られた。また、算数科においては、基礎となる計算は力を付けてきているものの、単量当たりの大きさ、分度器の使い方や円の描き方、少数のわり算など「量と測定」・「図形」・「数量関係」の領域での課題が見られた。

さらに、国語、算数いずれの教科においても、記述式の問題を依然として苦手としていることがわかった。

本年度はこれらの課題解決に向けて授業改善に取り組んだ結果、次のような成果と課題が明らかになった。

①授業の改善に取り組む

ア 「聴く」姿勢を大事にした授業

互いに学び合うためには、安心して自分の思いを出せる、分からないことを分からないと言える集団が必要である。外部助言者を招聘して全学級の授業を公開し、授業後の研究協議を重ね児童の学びや育ちを見極めてきた。そこでは、ペアやグループでの学び合いの場を活かしてきたことで、すべての子が学びに入れるようになってきた。

イ 「めあて」の提示と「振り返り」の活動

1時間の学習の目標を確実に達成させていくために、毎時間、めあてを提示し、授業の終末には1時間の学習の振り返りを書き表してきたことで、教員自身が絞った授業準備ができるとともに、振り返りが次の学習への意欲づけとなった。

ウ ノート指導（マイノートの活用）

学習の定着を図っていけるように、低・中・高学年でのノートづくりのモデルを示し、全校で取り組んできたが、教員の板書とも関連するところが大きく影響することもあり、教員、児童ともに今後も工夫をしていかなければならない。

エ 音読の徹底

日頃から文章を読むことから遠ざかり気味になることから、国語の時間に限らず、意識して声に出して文章を読むことを授業に入れてきた。読むことに抵抗があったり、たどたどしい読みであったり、読むことに慣れてい



ない児童も読むことが当たり前、読むことから始まるという状況が生まれてきている。

②学習規律の徹底に取り組む

ア 学びのスイッチの切り替え

授業の始まりと終わりを明確にし、次の学習や行動への切り替えをはっきりさせるためにもチャイムを効果的に入れたため、授業への入りがスムーズになった。

イ 学びのルールへの提示

チャイム着席から授業におけるルールの徹底を図るために教室前にルールを掲示し、常に授業に集中できるように取り組んできた。内容としては当たり前のことではあるが、すべての学年で取り組むことで学年が上がっても一からの指導をする必要がなくなった。

③学びの環境づくり

ア 校内放送の見直し

昼休みの校内放送は、児童の放送委員会で決定した音楽等を流していたが、放送原稿や流す曲、物語を再度見直し、全校に流れる物語や曲を落ち着いて聴けるようになった。

イ 校内掲示の工夫

子どもたちの幅広い学びにつながるよう、学びの環境が整うよう校内掲示に工夫を凝らす努力ができた。

(2) 効果的な少人数指導の取組

T T形式の指導を取り入れることにより、タイミングよく個別指導に入れることができ、一人ひとりによりきめ細かな指導を行うことができた。基礎的・基本的な事項の定着に効果的であった。

また、5、6年生において理科を教科担当として全学級を担当したことで、実験等の教具準備や教材研究も効果的に行え、より分かりやすい体験的な授業を実施することができ、児童のアンケート結果からも良い結果が得られている。

(3) 家庭・地域との連携

これまで学校として統一できていなかった家庭学習であったが、家庭での自主的な学習の手引き「学習のすすめ」を作成し、保護者・家庭の協力を願うことで学習の習慣化を図ってきた。また、学年の発達段階に合わせて自らが進んで取り組めるような内容、課題を例示してきた。結果としては、徐々に意欲的に取り組める児童が増えてきており、やらされる家庭学習から取り組んでみたいことも手掛けられるものになってきた。

(4) 学力向上アドバイザーの活用

学力向上アドバイザーがすべてのクラスの授業を参観してから、各担任にアドバイスをする時間を確保し、アドバイザーと担任が細かい部分まで効果的な指導方法や改善点について協議することで、授業改善につながった。

4. 今後の課題

本年度、前述の取組を行い、成果も上がってきたが、10月全に行われた、みえスタディ・チェックの結果からは、まだまだ国語、算数ともに課題があり、次年度は、本年度行ってきた取組にさらに磨きをかけ、学校体制で徹底して取り組む必要がある。

学力向上に向けて、基礎基本を大切に授業、子どもの疑問や実態に合わせた魅力ある授業、ペアやグループで学び合える学習形態を生かした授業、効果的なT Tの活用等、さらなる授業改善に取り組む。また、学校体制として、学習規律の徹底を図るとともに、家庭の協力を得ながら学習習慣の確立に向けてさらなる取組を継続していきたい。

「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究（小・中学校）」

平成27年度委託事業完了報告書

【協力校】

都道府県名 (推進地域)	三重県	番号	24
-----------------	-----	----	----

協力校名	三重県名張市立名張中学校
------	--------------

○ 協力校として実施した取組内容

1. 協力校における学力に関する課題

全国学調（以下、「全国学調」という。）の結果等から今年度当初の本校の課題を挙げると、国語A問題では全国平均並み、数学B問題では三重県平均並みの結果であったが、国語B問題、数学A問題では、全国平均、三重県平均を下回る結果であった。また、本校の特徴としては、A問題では無解答率は低いが、B問題になると無解答率が高くなる傾向にあり、文章を最後まで読んで考え、答えを導き出すことに課題があった。また、生徒質問紙調査から、朝食を毎日摂る生徒は多い一方、家庭での時間の使い方については、テレビやDVD、ゲームや携帯に時間を使う生徒の割合が高く、それに伴い家庭学習の時間が全国と比べて低い状況にあった。このことは、スマートフォン等の使用に関する実態調査の結果からも長時間の使用が明らかになっているとともに、「暇なときに使用したくなる」と回答している生徒が多かった。また、「物事をやり遂げてうれしかったこと」、「友だちの前で自分の考えや意見を発表することが得意である」、「人の役に立つ人間になりたい」と回答する生徒の割合は高いものの、「難しいことに挑戦すること」、「将来の夢や目標を持っている」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」「地域の行事に参加する」「親が学校行事に参加している」と回答した生徒の割合が低いなど、自尊心や自分が周りから大切にされているといった意識や、人とのつながりを問われる質問については低い傾向にあった。

2. 協力校としての取組状況

(1) 学力向上の取組

学校は、一人ひとりの生徒が、安心して有意義な学習に取り組める場でなければならない。そのためには、お互いの存在を尊重し、「信頼」で結ばれる仲間作りが必要である。このことから、「なかま力UP」の取組として、

- ・体育祭や文化祭等の行事を通して、自己有用感や自己肯定感を高め、互いに認め合う取組を進める。
- ・日常の授業で少人数での話し合い活動を取り入れ、自分の考えを表現する取組を進める。
- ・人権学習を通して「なかま集会」を行い、多くの仲間の中で自分の考えを表現できる力を育成する。
- ・学級満足度調査による学級の状況の把握とグループエンカウンター取組、満足を感じる規律ある集団作りを進める。

等を中心に行ってきた。

また、授業においては、

- ・学び合う場を充実する取組、「めあて」、「振り返り」を工夫し、ねらいを明確にした授業を行う。
- ・研究授業を通して、教師の力量を高める。
- ・全学年で数学の少人数授業を実施する。（2・3年ではSUT(スキルアップタイム)を設定し生徒の状況に合わせた授業を行う）を進めるとともに、学習習慣の定着を図るため、「学びのすすめ」を配付し、家庭学習の意義や進め方について知らせるとともに家庭との連携を進め、与えられた学習、受け身的な学習ではなく、自分の弱みを克服するための、「自主的に学習」を進める力を育成する。

等に取り組んできた。

(2) 集団の質を向上する取組

上記「なかま力UP」と関連し、「『合唱・あいさつ・清掃』を通してのより良い伝統づくり」に取り組んだ。また、体育祭等の行事や、地域とのつながりの推進（ボランティアクリーン）等もあわせて、生徒会中心に、企画・運営・反省等一連の活動を進め、主体的な実践力とリーダーの育成を図ってきた。特に、清掃では、「無言清掃」に取り組み、定着を図っている。

(3) 全国学調、みえスタディ・チェック、ワークシートの3点セットの活用

全国学調の自校採点を行い、本校生徒の課題を早期に把握し、正答率の低かった問題に対応できる力をつけるために、授業や家庭学習での課題の内容を工夫した。また、全国学調の過去問題を行った。

「読む力」「書く力」を伸ばすために、みえスタディ・チェックを行い、採点することで課題を見つけ、今後の学習内容に生かしてきた。

「読むこと」「書くこと」の領域で、生徒の実態やそのときの学習内容に合ったワークシートを、授業や家庭学習で活用してきた。

(4) 効果的な少人数指導の取組

全学年数学を2分割して授業を実施した。数学の苦手意識を取り除き、どこでつまづいているかを教員が的確に把握し、生徒一人ひとりが学習内容を理解し、基礎から応用までの力を伸ばすため、個に応じた指導を目的として、この形態を取り入れた。また、数学の学習に於いて一部習熟度別に、「応用」、「標準」、「基礎」の3つの講座に分かれ、少人数指導を実施した。

また、通常の授業でも、生徒どうしの間で、教え合いをしたり、躓いている生徒に対して理解できている生徒が助けるなどの共同的な学習を取り入れたりした。

(5) 家庭・地域との連携（全国学調結果の公表やチェックシートの取組を含む）

全国学調の結果については、一人ひとりの結果を個人に配付し、個々の強み弱みを説明し今後の学習に生かすようアドバイスをを行った。また、本校全体の状況を保護者説明会や文書の配付によって、保護者に知らせた。

(6) 学力向上アドバイザーの活用

三重県教育委員会から派遣された学力向上アドバイザーに授業を参観していただき、その都度授業への指導や助言をいただいた。また、学力向上アドバイザーからいただいた指導・助言等を研修会などで教員全員に還流し、それぞれの教員が自己の授業改善に役立てた。

3. 取組の成果の把握・検証

(1) 学力向上の取組

体育祭や文化祭等の行事を通して、自己有用感や自己肯定感を高め、互いに認め合う取組を行い、学級満足度調査による学級の状況の把握等により教員が生徒の実態を把握した上で指導に当たってきた結果、生徒の学習に向かう姿勢に変化が見られ、落ち着いて学習を進められるようになってきた。

また、日常の授業で少人数での話し合い活動を取り入れ、自分の考えを表現する取組を進めたり、人権学習を通して「なかま集会」を行い、多くの仲間の中で自分の考えを表現できる力を育成したりするよう努めてきた結果、授業中の発言も増えてきた。

授業においては、学び合う場を充実する取組、「めあて」、「振り返り」を工夫し、ねらいを明確にした授業を行い、数学の少人数授業やSUT(スキルアップタイム)の取組により、特に2年生数学では、みえスタディ・チェックの結果において、県平均、名張市平均も上回る好結果につながった。

(2) 集団の質を向上する取組

「『合唱・あいさつ・清掃』を通してのより良い伝統づくり」に取り組んだり、体育祭等の行事や、地域とのつながりの推進（ボランティアクリーン）等もあわせて、生徒会中心に、企画・運営・反省等一連の活動を進め、主体的な実践力とリーダーの育成を図ったりしてきた結果、全体的に主体性が徐々に育ってきている。「無言清掃」も定着し、引き続き、学校生活の様々な面に好影響を及ぼしている。

(3) 全国学調、みえスタディ・チェック、ワークシートの3点セットの活用

全国学調やみえスタディ・チェックの自校採点を行い、弱み強みを分析し学力向上プロジェクト担当を中心に研修を行い、授業研究や授業改善に生かしてきた。

全国学調の生徒質問紙で、「1, 2年生のときに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」との問いに「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた生徒は47.9%だったが、10月に行った1年生の「みえスタディ・チェック」での同アンケートでは、名張市では69.3%に対して、本校は79.5%へと改善しており、全国学調やみえスタディ・チェックの結果を受け授業改善に生かしたことが成果として表れたと考える。

ワークシートを授業や家庭学習で活用してきた。家庭学習に使用した場合は、授業において答え合わせをしたり解説したりしながら重点的なポイントを押さえてきた。

これらの取組により、「書く」活動に関しては、名張市のアンケートで「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くのは難しいと思いますか」との問いに、「当てはまらない」と答えた生徒の割合は、名張市が16.5%のところ本校は19.9%と名張市平均より3ポイント上回っている。生徒たちにとって書くことへの苦手意識が少なくなってきたと考えられる。

(4) 効果的な少人数指導の取組

今回の全国学調で「弱み」の見られた文章題、特に文章中から数量を文字で考え文字式で表す学習、また3次元(空間図形)の問題に力を入れて取り組んだ。また、数学の学習で一部習熟度別に3つの講座に分け少人数指導を行い、基礎基本の定着と応用への対応する力を育成するために取組を進めた。

通常の授業でも、生徒同士の間で、教え合いや、躓いている生徒に対して理解できている生徒が助けるなどの共同的な学習を行った。その結果、みえスタディ・チェック2年数学において県平均が57.5%のところ、本校は、62.0%と4.5ポイント上回った。

(5) 家庭・地域との連携(全国学調結果の公表やチェックシートの取組を含む)

家庭学習の定着に向け、宿題チェックシートを活用し毎月の家庭学習の状況を家庭に報告し、家庭と連携して取り組みを進めた。こうした結果、名張市のアンケートでは、「家で学校の宿題以外に自主的な学習をしますか」との問いに、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた生徒の割合は、名張市平均が51.4%のところ、本校は53.0%と1.6ポイント上回った。

読書習慣の定着に向けては、朝の読書の充実やチェックシートをPTAと連携し取り組みを進めた。その結果、名張市のアンケートで、「普段家でどれくらいの時間読書をしますか」との問いに「全くしない」と答えた生徒の割合は、名張市平均が34.1%のところ、本校は26.7%と7.4ポイント下回った。

(6) 学力向上アドバイザーの活用

学力向上アドバイザーに授業を参観して授業者への助言や指導を頂くと共に、その内容を校内研修会で環流し、授業改善に活かす取組を進めた。特に「振り返り」については5つのレベルについて指導頂いたことも改善につながったと考える。

4. 今後の課題

1月18日に、文部科学省教科調査官の訪問を受け、その際、授業で活用するワークシートは教員の使いやすさではなく、生徒の考えを深めるためのものであること、「めあて」と「振り返り」はセットで考え、特にめあては、生徒目線であること、発問の工夫、家庭学習の工夫、生徒に任せることで生徒の自主的な意欲を育むこと等の指導を受けた。これらのことは、そのまま、本校の課題と合致するところであると考えられる。

本校では、「無言清掃」の取組等や各教員の授業での取組が実り、大変落ち着いた環境で生徒が自主的に学習に取り組む素地ができつつある。今後は、全国学調、みえスタディ・チェック、ワークシートの3点セットの活用、効果的な少人数指導の取組、家庭・地域との連携等において、本年度の取組をさらに全教員の共通理解のもと、より丁寧に取り組んで行くことによって、さらに学力定着を進めていきたいと考えている。